明治四十一年一月二十日發行

(明治二十年十一月本會創立)

婦人衛生雜誌

第二百十八號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第貳百拾八號目次

恭賀新年

併て會員諸氏の健康を祈る

明治四十一年戊申元旦

私立大日本婦人衛生會

謹賀新禧

新潟支會

山形支會

宇都宮支會

茨城支會

高崎支會

米澤支會

大日本婦人衛生會

二月例會通知

來る二月一日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一我邦婦人の步容　醫學博士　田代義德君

一身體及び其保護(續)　ドクトル　富士川游君

明治四十一年一月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會 設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相聚て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは頗に喜ばしきことなれども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し　衛生上の智識を開發せしめ隨て社會一般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するヿを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續從來に詳なり）入會後轉所等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條、會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推し皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條、本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託するヿあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯、出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす満期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　例會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を嘱托し會員をして隨意聴講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聴せしむるヿを得（但衣服は總て從來たるべき事）●第十九條　講義演説等は男子の傍聴を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の増減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を本會に請求する者は本會々員に同じ●第廿九條　支會は集會の都度に其狀況を本會に報告すべし●第三十條、本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付す●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは物品を寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

東伏見宮依仁親王妃

總裁　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三新子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多稔子
仝　松平芳子
仝　三浦教子
仝　石川貞子
仝　岩下ゆか子

評議員　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四　升子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川求子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武雛枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子

評議員　子爵夫人　山口貞子
仝　松井正子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下欣子

●支會　新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
醫學博士　●色川閑士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
日本赤十字社　岩井禎造君
醫學博士　●石原久君
醫學博士　●磐瀨雄一君
醫學博士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　●濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　●樫原[illegible]君
醫學博士　●芳賀榮次郎君
醫學博士　●長谷川泰君
醫學博士　長谷川[illegible]君
新潟　小原[illegible]君
小兒科　●岡田[illegible]君
醫學博士　●林春雄君
醫學博士　●佐藤近次郎君
醫學博士　●緒方正規君
北兵中佐　●瀨內文藏君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學博士　●大西[illegible]君
醫學博士　●大山[illegible]君
一等藥劑官　●恩田[illegible]君
醫學博士　●若杉[illegible]君
醫學博士　●渡邊[illegible]君
男爵　●加藤弘之君
醫學博士　●加藤[illegible]君
醫學博士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學博士　●川上[illegible]君
醫學博士　●樫田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學博士　●笠原光興君
醫學博士　●唐澤光德君
醫學博士　●河野衛君
醫學博士　●高山[illegible]君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高木[illegible]君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　●田代義德君
醫學博士　●川代[illegible]君
新潟　高崎正風君
男爵　●竹中成憲君
醫學博士　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學博士　●高原貞吉君
藥學博士　●田村[illegible]君
醫學博士　●田原[illegible]君
醫學博士　●久保猪之吉君
醫學博士　●米山[illegible]君
二等軍醫正　●星野[illegible]君
醫學士　●宮本叔君
三等軍醫正　●横井[illegible]君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部[illegible]男君

醫學博士　●長井長義君
醫學博士　●遠山[illegible]君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學博士　●黒澤[illegible]君
陸軍軍醫總監　●栗本[illegible]君
醫學博士　●小池[illegible]君
醫學博士　●村松[illegible]君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學博士　●山田[illegible]君
醫學博士　●山川[illegible]君
醫學博士　●山根正次君
醫學博士　●丸山[illegible]君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●此木[illegible]君
盲唖學校長　●小西信八君
醫學博士　●小泉[illegible]君
東京　●吉川[illegible]君
醫學士　●布施[illegible]君
醫學博士　●後藤[illegible]君
エルヴィン・ベルツ君
醫學博士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田[illegible]君
醫學博士　●寺田[illegible]君
醫學博士　●秋元[illegible]君
子爵　●足立寛君
前軍醫總監　●新井[illegible]君
ドクトル　●富士川游君
ドクトル　●土谷[illegible]君
高崎　●水原[illegible]君
産科婦人科　●久保[illegible]君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學博士　●佐田[illegible]君
醫學博士　●淺山[illegible]君
ドクトル　●朝倉文三君
醫學博士　●朝山[illegible]君
醫學博士　●吉妻[illegible]君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學博士　●櫻井郁二郎君

ドクトル　●佐伯理一郎君
醫學博士　●榊順次郎君
醫學博士　●佐藤[illegible]君
醫學博士　●櫻井[illegible]君
醫學博士　●桐淵[illegible]君
醫學博士　●北村[illegible]君
醫學博士　●北川乙[illegible]君
ドクトル　●北島多一君
醫學博士　●木下正中君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦謹之助君
醫學博士　●三浦守治君
小兒科專門　●三宅[illegible]君
理學博士　●宮島[illegible]君
醫學博士　●三好[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
伯爵　●島村[illegible]君
醫學博士　●弘田長君
醫學博士　●吉田[illegible]君
ドクトル　●[illegible]君
ドクトル　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
ミス　●[illegible]
ミス　●ツ[illegible]テスル
ミセス　●[illegible]ツ
ドクトル　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君
ドクトル　●[illegible]君
ドクトル　●[illegible]君
ドクトル　●[illegible]君
醫學博士　●[illegible]君

○本誌口繪の解

醫家善那氏牛痘を種え疱瘡を防ぐ事を發明せしが其說行はるゝまでには多少の障碍に逆ひ氏は英國グロースターシャーの人なり此前既に此地の牛乳を搾る女伴の中に流傳して牛痘の事を見聞するもの少なからず然れど流俗の說と做つて之を試むるもの一人もなかりし、氏少年の時ソドバレーの外科醫の徒弟となりし時一の村女あり其師の家に來り其疾を診視して疱瘡なりと言ひ村女は予れ此疾を得ることなし何んとなれば予れ甞て牛痘を受けたればなりと云ひけり、氏之を聞て忽ち之を究察せんと思ひて一日朋友に語りしが大に嘲けられ、其後倫敦に至りヂョンハンターの弟子となり其の牛痘の說を語りければ此の解剖の大家の首は徒らに思ふ事なくして實に之を試みられよ久きに耐へ又精細なるを要す」と氏之に由て勇氣は益々加ひ遂に故鄕に歸り二十年の間經驗の功を積み先づ已が子に牛痘を種へ試みに其後書を著して牛痘を種えたる人は疱瘡流行するも傳染を受けざる廿三案を載せ一千七百九十八年（寛政十年）に始めて頒行す、又或る敎師の誹說に牛痘を種ゆる事は妖術なり、又世人の說に種痘したる小兒は牛の面に次第に似ると其疥は牛角を生ず、又其小兒の聲は牛の吼る聲に似ると云ひて之を嫌ひ惡みけり」然れど種痘の事は元來質益となる事なれば斯の如き烈しき詆毀あるにも拘はらず漸々之を信ずるもの出て來れり甞て村の紳士其子に牛痘を種えたれば其子門前に出づる時は村中の人之れに石を投げ家に追ひ入れたり、大家の婦人ダシー及び伯爵の夫人バークリイ其兒輩に種痘を受けしめたり」是より此の新發明の事盛に行はれべく見ゆれば校猾の醫者善那氏の功を奪はんと欲し自から發明したりと訴ふるもの數人ありしが氏の案件終に勝を得て齊く時人に崇敬せらるゝに至れり。氏の天性は始終節を改めざるの人なり、倫敦に住みなば一年一萬金（凡そ我國三萬五千金に當る）を得べしとて之を招くものありけれども否みたりと、氏は其の生時に及んで文明の諸邦に牛痘の行はるゝを見、又其の死する時恩惠の主と云へる號を遠近より得たり」クーツイエーは牛痘を傳ふる事は特に今時の發明と雖も其の恩澤は永世無疆に及ぶべし、然れども善那氏の學士會院の門戶を二十度空しく叩きたりき、世に斯る大裨益ある發明なれども始めは有名の學士の社會にも排擯せらるゝこと二十回に及べりと云へり



種痘の開祖世界の恩人善那(ゼンナー)氏の紀念銅像
(我が愛兒に種痘を施せし所なり)

婦人衛生雜誌第二百十八號
（明治四十一年一月二十日發行）

講演

衣服の危險

醫學博士 横手千代之助君講演

今日は鼻加答兒に罹て居りますから定めて御聽き苦いことゝ存じますが此段は豫め御許を願ます。衣服に就て御話し申すべきとは多々ありますがみな御話する譯にもなりませぬ故今日は只衣服の危險と云ふ題にて少く御靜聽を煩はさうと思ひます。

我々か衣服を永く着て居りますと上着てあれば外から塵埃か落て來たり或は汚物に接觸することによりまして不潔になり又た膚に直接に着て居るものてあれば皮膚より分泌して來るところの汗や脂肪により又は皮膚の表面から剝脱して來る表皮細胞か附着して其のために汚穢となるものである衣服に附着したる汚物が其の儘て別に變化がなければ只汚い丈て大なる害もありませぬがそうは往かぬ之れが分解して種々の有害なる生產物が出來るものてある

一體細菌と云ふものは宇宙に蔓延してあるもの故に衣服には勿論附着して居るものてある其上に衣服は皮膚の上にあるもの故に其の溫度は高く又た皮膚からは水蒸氣を發散し又た汗が分泌して衣服を潤すために細菌の發育には至極好都合の所てある其のために細菌は汚物を自分の食物として發育增加するものてあつて此の際に種々の衞生的注意をなすへき生產物が出來る一は酸類の如きものてありまして揮發はせぬが之が皮膚を刺戟して其の病を起すことがある一は瓦斯體て其の主なるものは炭酸や「アムモニヤ」てある又た種々惡臭を放つ物質てある是等のものは直接に有害に作用するものもありますし又た左程に

有害でなくとも其の臭氣によりて不快を感ぜしむるものもあります又た此のため不識不知深呼吸をなすことを避け常に淺き呼吸をなしまして其樣な結果として多少肺の疾患の原因ともなるのであります。其他間接には、人の身體の抵抗力を弱くするやうな結果を來すものであつて、是れは人間などの試驗ては到底出來ぬ話でありまするが、動物にやつた試驗を人間に推しうつしての御話でありまするが、安母尼亞の如き瓦斯、左ほど餘計な分量のない瓦斯の中に動物を入れて置きますと、其の動物は傳染病毒に對して非常に抵抗力が弱くなる、良い空氣に這入つて居る動物は、同じやうに傳染病毒を植ゑてやつても害せられず居るのに、一方の臭氣が餘計にある空氣の中に棲息して居つた動物は其の病毒に害され易い、之に依て見ますと矢張り人間なども直接には分らぬけれども、間接には斯樣な結果があるだらうと推測さるゝて是れが吾々の衣服の汚物に依て受くる所の危險でありまするからして、申すまでもない話であるが衣服を清潔にすると云ふことが最も必要である、是れは衛生上ばかりでなくして社會上に於ても頗る必要な事柄であらうと思ふ、併ながら清潔にすると云ふことは、啻に上着のみならず下着もやる、殊に下着の方が必要である、是れは唯吾々の考へのみであるかも知れぬのでありまするが、世間の狀態を調べて見ますのに、どうも上着の方を清潔にする、殊に婦人の方はどうしても奇麗な物を着ると云ふ傾きがある、近來は其の傾きが頗る多いかの如く感ずるのであります、上着を除いて下の衣服は上着ほど清潔になつて居らぬ傾きがあるので、上着の競爭はあちらでもこちらでも見まするが、下着の競爭はまだ見たことがない、吾々は下着の競爭を見たいのであります、肌に着ける衣服は物は下等なものであつても、それが清潔になつて居るのは最も良いことである、西洋人などは——少し西洋人の肩をもち過ぎるか知れませぬが其の傾きがありはしないかと思ふ、此處にお出になります緒方博士の奧樣の

お配遇の緒方博士から伺つたことがありまするが、西洋人は湯に入ることは頗る嫌ひてある、嫌ひの譯てもないてせうが、兎に角湯錢が高いので日本人ほど湯に入らぬ、そこて吾々が參りましても、お前達は湯に入らぬ、汚い人間であると云ふやうなことをよく言ふ、さう云ふ時に西洋人の言ふのに、吾々は湯には入らぬ、併ながら吾々の下着は毎日湯に入つて居る、だから吾々の身體は清潔であると言つて居つたさうてあります、是れは頗る味ひのある話てあつて、清潔な下着を毎日換へるから從つて皮膚から汚物を取つて皮膚は清潔てあると云ふことになる、所が少し重複に亘るが日本の狀態を見まするると、湯にはよく入る、所謂裏店の人ても湯には毎日入るが其の下着は頗る汚いと云ふ狀態が往々あるのてあります、故に此の下着をば清潔にすると云ふことを切に希望するのてあります。

次に瓦斯の話てありますが、衣服は瓦斯を吸收する性質を有つて居る、此の空氣の中には種々の瓦斯が保たれて居る、甚だ尾籠な御話て恐入る譯てありまするが、例へば便所の如き所から安母尼亞瓦斯か盛んに發生して來まするが、あゝ云ふやうな瓦斯をば吾々の着て居ります衣服は吸收する性質を有つて居る、衣服は汚物が附いたり何かして汚れずとも、さう云ふやうな瓦斯を吸收して自然汚くなるやうな傾きがある、其の瓦斯を吸收する力は衣服の種類に依て違ふ、即ち其の材料に依て違ひます、押なべて言ひますと、毛織物は臭氣をば餘計に吸收する力を有つて居る、他の物は其力が割合に弱い、木綿などは左ほど強くない、それ故に一つの衣服を長く着て居りますと、汚物が附いて居らぬても其の臭氣の爲に衣服が不潔になつて、自然に其の臭氣をば發生するやふになつて來る、私が一度試驗をしたことがありまするが、便所等から盛んに發生する安母尼亞瓦斯に就て試驗をして見ますのに、木綿の衣服は左ほど吸收しない、吸收しましても直ぐ取れて仕舞ふ、所がフランネルのやうな毛織物に就て見ますと、そ

れが吸收されまして、さうして永い間保たれて居るのてあります、他のさう云ふ瓦斯の無い場所に行きましても、此の衣服から段々に瓦斯が發生しまして周圍に迷惑をかけるやうなことがあるのてす、尾籠な話てあるが便所の中から出て來ると、フランネルの衣服などては、其人の側に坐ると永い間臭氣があるのてす、此事は衛生上に關係があるばかりてなく社交上甚だ不體裁な譯て、大に注意すべき事柄てあらうと思ふてす、併ながらフランネルの衣服は他の方面に於ては衛生上に適當して居る物てあるから、之を用ゐないと云ふ譯には到底いかぬ、それ故に何か臭氣のあるやうな場所て働くと云ふ場合には、さう云ふやうな衣服を避けることが必要てあらうと考へます、要するに斯の如き危險がありまするからして衣服をば屢々洗濯することが必要てあらふと思ひます。

瓦斯の害は其位のものてありますが、もう一つ申上げて置きたいのは、先程申した所の病毒が衣服に附いて居ると云ふことてある、病人が衣服を着ますると、其の着ました衣服には種々なる病毒が附着するものてあります、其の種類は色々あつて一々御話する必要もなからうと思ふし大抵分つて居る、さうして其の衣服に因て傳染病が蔓延すると云ふことは疑ふべからざる事實てありまして、能く原因を調べて見まするとヽ窒布斯がうツた、ヂフテリーがうつツた、と云ふこともあります、殊に吾々の能く知つて居るのは天然痘てありまするが、是れも衣服からうつるものてある、今日は幸ひ種痘が普及して居りまするからさう云ふ事はありませぬが、之に依てうつることは分つて居ります、現に此の衣服に依りまして今日の種痘法と同じやうな事をやつて居つた、輕い天然痘患者がありますと、其の患者の着て居つた所の衣服を貰つて來てこれを自分の家の子供に着せるさうすると、天然痘が輕く濟むと云ふやうな考へから着せる、さうすると子供が確かに天然痘に罹るのてあります、是れなどは衣服に依て起る所の最

も適切な例である、又古來不思議な物語として居ります所の事柄も斯う云ふやうな事で說明の出來ることがあらうと思ふのです、昔江戸の明暦の火事てありましたか本郷の圓山火事と云ふものがあつたさうであります、それを講釋其外の事に付て聞いて見ますと、一番初めに或娘さんがあつて、それが振袖を持つて居つて大變大切にして居た、それが不忍池の側てどうとか斯うとか云ふやうなことがありまするが、其の娘が癆症のやうな病氣て死んだ、然るに其の振袖を非常に大切にして居つたものてありますから、葬式の際にそれを棺の上へ載せてお寺へ持つて行つた、お寺ては其の振袖を何處かへ賣つて仕舞つた、さうすると其の翌年の同月の同じ日になつて葬式があつた、其の葬式を見ると、矢張前の振袖と同じ振袖がかゝつて居る、病氣を聞いて見ると、ぶら〱病て死んて仕舞つたのである、其の場合にも寺ては矢張り振袖を賣つて仕舞つた、すると其の翌年の同月同日にまた同じやうな若い娘の葬式が來た、それを見るとまた前の振袖がかゝつてあつた、三度まて同じ振袖がやつて來て居る、一番初めの人の三週忌て、二番目の人の一週忌てある、もう一つ同月同日に葬式と云ふので、三つの家族が寄り集まつた、寺ても甚だ不思議だと云ふので皆な集めて見せると初めに拵へてやつた家、二番目にそれを買つたもの皆自分の家の振袖であると云ふことになつた、それは甚だ不思議であると云ふので到頭それを燒捨ることになつた、所が其の振袖が風も無いのに飛上つて、其の振袖の火から棟に燃えうつッて大火事になつたと云ふ話がある、此話を說明するに、元は何かの祟りである、不忍池の主の祟りであると云ふやうなことを言ふて居る、色々牽强附會の說を唱へて因緣事にして仕舞ました、唯是れだけの話ては甚だ其の病氣は不思議である、併ながら今日の傳染病學的の眼を以て說明すると不思議でない、是れは私一人の考へてあるから少しこぢつけてありまするが、初めの娘さんは必ず肺結核て死んだに違ひない、其人が

愛翫して居つた振袖でありますから其の振袖に結核菌がコテ〳〵附いて居つたに違いない、それをば第二番の娘さんが買つて、大變悦んで着て居つたのであるから其娘にうつッて肺病になつて死んで仕舞つた、第三の人も同じやうな原因からうつッて死んだものであらうと思ひます、同月同日に死んだと云ふことは說明に困るけれども、兎に角斯う云ふふうに說明すれば說明の出來ることとて、私の臆測に止まるので少々無理な解釋かも知れませぬが、要するに斯樣な事は衣服から傳染した所の一の傳染病に違ひないであらうと思ふ、是等は詰り私の言ふ事をば確かめる爲に、少々まづいけれども申上げたゞけでありますが、衣服から傳染すると云ふことは疑ふべからざる事實である。

今日の法律に依りますと急性傳染病、即ち虎列剌、ペスト、赤痢と云ふやうなものに於きましては傳染病豫防規則がありまして、是等の患者の着た衣服は其儘にして置くことは出來ない、消毒所に持つて行つて消毒すると云ふ規則になつて居ります、中には不都合な人があつて、消毒されては品物が惡くなると云ふて隱す人もあるかも知れませぬ、併ながら大部分は出しますから、さう云ふやうな人が着た衣服でありましても大概消毒されて仕舞つて比較的危險はないのであります、唯恐るゝのは、慢性の傳染病に罹つて居る人の着た衣服、結核でありまするとか、癩病であるとか、花柳病であるとか云ふやうな者の着た衣服に付てはやかましい規定が無い、併しさう云ふ衣服は消毒せぬと尙更危險であります、斯う云ふやうな患者でありますと、永い間病つて居りますからして、どうしても病毒が衣服に着き易いのであります、其の病毒が衣服に附いて居りますと、或は是れが肺結核の如きものでありまするとなると喀痰となつて一緒に附いて居る、癩病患者の如きものでありますと膿と一緒に附いて居ると云ふやうに、或外の物と一緒に附いて居る爲に比較的永く附いて居つて永く生活して居る、さうして人に傳染する力を有つ

て居るものであつて、斯う云ふやうな衣服は一定の規則の無い爲に、或は之を親類にやることも出來ればそれを賣ることも出來る、病毒の傳播は少しも妨げらるゝことなく、あちらこちらに擴げられて居るのであります、其爲めに病氣に罹る人も隨分あらうと思ふ、急性の傳染病でありますと警察的の調べが大變に嚴重でありますから、此の系統が何處から來たと云ふことも分りますが、今のやうな慢性の傳染病でありますとさう云ふ方法も無い、從つて何處から來たか分らぬので、確かに此處から來たと云ふことを證明するとは出來ませぬが、事實どうしても餘計なければならぬのです、斯う云ふやうな譯でありますから、茲に一つ起つて來るのは古着の問題である。

上流社會に於ては古着を買つて來ると云ふやうなことはありますまいが、中流以下にあつては古着が甚だ必要である、自分の家の者に一々新らしい高い衣服を買つて着せると云ふことは困難でありますから、場合に依て古着を買はなくちやならぬと云ふことがある、固より總ての古着が必ずしも病毒が附着して居るとは斷定が出來ない、併ながらどの衣服に病毒が附いて居るか、或は居らぬか分らぬ話であります、好い衣服でも附いて居るかも知れない、惡い衣服でも附いて居らぬかも知れない、兎に角どれがどうと云ふことは分らぬ話で、眼に見えるやうなものでありますれば直ぐ分る話でありますが、傳染病の原因となる病毒は到底眼で見ることは出來ない、それ故に古着を買つた場合には、其の衣服は病毒が附いて居るものと、見てかゝつた方が安全である、必ずしも附いて居ると極つたものではないが、兎に角さう取つてかゝつたならば安全であるのです、さう取つてかゝることにしますと、買つた所の古い衣服をば其儘用ゐると云ふのは甚だ不氣味な話である、一定の方法に依て淸潔にして着た方が心持が快い、心持が快いばかりでなく衛生上安全である、それにはどうしたら宜いかと云ふと消毒をすると云ふことになるのです、併ながら是れは甚だむづかし

いので、絶體的に消毒をして安全の衣服にしやうと云ふことになると、物に依ては品がいたむ、折角の衣服が代無しになると云ふやうなことて、殆ど行ふことが出來ないのであります、併ながら兎に角一定の方法に依て其の危險を少くすると云ふことは出來るのであります、衣服の左ほど高くない物て、洗濯しても差支ないやうなものでありますれば、それをば熱湯に入れて、あとをよく洗へばバクテリヤを殺すことが出來る、即ち病毒を殺すことが出來て且つ清潔にすることが出來る、併ながら極く良い衣服、例へば縮緬の羽織を買つたとか云ふやうな場合には、熱湯の中に入れて洗濯するやうなことは到底出來ないのであります、又そんな事をしたならば到底着ることが出來なくなつて仕舞ふ、斯う云ふ衣服に付てはどうしたら宜いかと言ひますと、勿論染色等に依て違ふので、鮮やかな染色てはうつかりして消毒は出來ぬ、此際には已むを得ぬから日光消毒をするより仕方がない、日光消毒と云ふのは强い日光に曝すことてありまして、是れも大變病毒を殺すに力のあるものてあります、カン〳〵して居る日光に長い間曝しますと多くの病毒は死んで仕舞ふ、それ故に今のやうな衣服は幾度も引つくりかへして天日に曝して、然る後に用ゐることにしますれば、都合に依ては多少の病毒が殘つて居る虞もありませうが、大部分は死にますから安全と見られることにならうと思ふ、又左ほど價格の無い物でも洗濯が出來ぬと云ふやうなことてありますればフオルマリン消毒てありまして、フオルマリンを霧のやうにして衣服に掛けて、長い間閉塞した箱の中に仕舞つて置く、さうすると品質を害することなくして消毒が出來る、併ながらフオルマリン消毒と云ふやうなことも、口て言ふとやさしい、吾々から言へば頗る雜作もない仕事てありまするが、素人か衣服を買つて來て、それを消毒する爲にフオルマリンてやることになると臆劫な話てあります、さう云ふ場合には已むを得ぬから——出來るならフオルマリン消毒をやつた方が

宜いが、出來ずんば日光に曝してやれば宜いと思ふ、斯の如くに古着を取扱つて用ゐたならば、古着に依て起る所の危險は、恐らくは殆ど無くなすことが出來やうと考へるのであります。

私が用意して來た事は是れだけてありまして、又先ほど御話をする通り少し鼻加答兒を起して居りまして、話が困難でありますから是れて御免を蒙ることにしたいと思ひます。

叢談

婦人の病氣

醫學士　F、W　生君

婦人生殖器の病氣は文明の進歩に連れて、益々猛勢を逞うするやうてある。故に此病氣は野蠻人よりは文明人に多く、下等社會よりは上流社會に多く、田舍よりは都會に多い。今日に至りては『子宮が惡い』とか、『月經が不順だ』とか呟くものが比々相接すると云ふ有樣て、日常の新聞雜誌紙上ても『婦人病一切によし』とか、『子宮病に特効あり』とか云ふ樣な効能を并べ立てた賣藥の廣告が益々多きを加ふる樣になつた。これ誠に個人にとり幷に國家にとつて悲しむべき現象て、婦人の生活及び習慣中、何處にか衛生の方則に背戻た所があるからては無からうかと疑はれる。故に世の若き婦人にして能々一身を顧みて、苟も惡しからんと思はるゝ習慣があれば、速に之を取り除くやうにせば、奸商に欺かれて如何はしき賣藥にアタラ大金を失ふことも無く又之がために徒に身體を害ふことも無からうと思はれる。

婦人病には種々あるが、子宮が通常の形を失ふて前後左右に曲るとか、或は普通にあるべき位置を轉じて一方に片寄るとか、又は下方に下がるとか云ふことがある。是等の變位若くは變形のため多くの苦痛

を起し、屢々局部に潰瘍を生じ、又白帯下及び月經不順等を來すことがある。

白帯下

とは病氣の名では無くして、只生殖器に變異のあるのを示す一つの徴候である。服装の不適當なため腟の粘膜に充血を來すか、感冒をひくか、若くは胃弱に悩めるためにも亦白帯下を見ることがある。耳、鼻、咽喉、眼、腸、生殖器等の様に絶えず外界の空氣に接觸するところは、凡て粘膜と稱する薄き膜より掩はるゝもので、此粘膜は其乾燥を防ぐがため絶えず少量の粘液と云ふ水分を分泌するものであるが若し或原因のため此粘液分泌が度を超ふる時は、通常之をカタールと云ふので、腸胃カタール咽喉カタールなどと云ふのも皆此粘液分泌の過度である状態を指すのである。白帯下も亦生殖器の粘液分泌の過度なるがため生ずるもので、月經の前後には通常多少の粘液分泌の盛になるものではあるが、之が何時迄も長引いて其分量も益々多く、且つ惡臭を放ちて其色も血性を帯びることがあれば、學術手腕共に優れたる醫者に就て叮嚀なる診察を乞ひ、自分からも能く衛生の常則を守つて其攝生に心掛けねばならぬ醫療を加へやうとするには醫者の選定を誤つてはならぬ。玄關を廣くし廣告を大にして患者の耳目を引かんと欲し、『數日間にて全治すること請合なり』とか『禮狀山の如し』とか大言する醫者は多くは山師て、學理實際よりは口と舌とて醫業を營む輩であるかゝる山師は巧みに僞言を弄して一方には病氣の重きを云ひて患者の心を驚かし、他方には自己の技能妙藥を誇つて患者の信用を繋がんとする。其手段の陋劣卑屈なること寧ろ驚くべきである。不幸にして讀者諸姉の中に婦人病に悩み給ふ方があらば、斯る山師醫者の甘言と奸策とに欺かれぬ様に注意することが肝要である。

生殖器の病氣は成る可く之を秘密にして親兄弟にも打ちあけず、獨り自ら心を砕て兎やせん角やと悶へ煩ふのが人の常ではあるが、さりとて徒に手前療

治を施すのは大に警しむべきことである。一旦病氣になれば心の迷ひの生ずるのは誰しも同じことで、我ながら笑止と思ふ事に迄も眼のくらむものであれば、平素健康な時には『賣藥』なぞと一笑に附し去つても、イザ病氣となれば『中將湯』よ、『月さらへ』よ『通經丸』よと人知れず秘用するものも少からぬのである。成る程數多い人の中には之を用ひて多少輕快したと云ふものもあらう、然しながら之は寧ろ僥倖りと云ふもので、何れの婦人病にも効能があると云ふ道理が無い。從つて長く之を信賴にして適當時に適當療法を怠れば、益々重態不治の有様に立ち到るの虞れがある。

故に自分一人の心に決し兼ぬる時には、早速『かゝりつけの醫者』を訪ひて事情を具し、其指揮を仰ぐのが安全である。若し他の醫者に診察て貰ふと思ふならば、道德心が堅固で、人格が高尙で、相當の學識經驗を備へた者を撰ばねばならぬ。自分からは消化し易い滋養物を日々の食料となし、衣服は清潔にして寒からぬを度とし、充分に睡眠し、適度に運動し、斯て全身の健康を助長する様に心掛ける。腰湯全身浴冷水摩擦抔は身體を清潔ならしむると同時に、血液の循環を良くするものであるから、白帶下、血液の欝滯、月經不順其外の生殖器病に効能がある。

初めて月經のあるのは我國人では平均十四五歲であるが、中には十一二歲頃からあるものもある。十七八歲になつても無いものもある。體質が虚弱で榮養の良く無い女子は全身の活力も乏しいから、月經を見ることも遲く或は全く見ぬことがある。かゝる人は一般の榮養を高めて其健康を增すべき筈で、人爲的に出血せしめやうとして催經藥など用ふるのは宜しくない。體質榮養共に良き相當年齡の婦人に月經が無くつても、別に方法を講ずるに及ばず靜に表はるゝ日を待つのがよい。

月經が只一度あつたのみで、其後數週數月を經ても再び之を見ることの無いのは珍らしくない、他に何等の異狀も無ければ別に心配するに及ばぬ、只心身

を安靜にして其過勞を避ける樣にする。少女などては學校へ通學する間は月經が無く、休暇になれば表はれてくる事がある。これは腦力精神を勞する間は活力の大部分が其ために費されるから、月經作用を營むには力の足らぬためである。故に心身の安靜は必要である。

經血の分量が少ければ如何かして之を增さうとするものもあるが、全體經血の過量なのは寧ろ人爲的生活の結果であることが多く、平素の生活が自然の規則にかなつて居る程經血の量も少いものである。故に全身の健康さへ異狀が無ければ、よしや經血の分量が少くとも決して心配するに及ばず、寧ろ已れの生活が自然的であるのを喜ぶべきである。然し感冒疲勞、心配、苦慮、神經衰弱などの爲めに急に經血の分量が減じ、局所或は全身の病氣の爲め徐々に經血量の少くなる樣な時には、宜しく醫者の診察を乞ふて其病源を見極めねばならぬ。

月經は通常三日乃至七日位續くもので、四日乃至五日位の者が最も多い。其出血の量は平均二百五十瓦位であるが、人によりて多少の相違がある。故に月經の長い短いと云ふのも、出血量の多い少いと云ふのも要するに比較上の言葉であつて、其間に一定した標準のあると云ふのでは無い。例令分量が多くても身體の衰弱も無く、貧血する樣子も無ければさして心配するにも當らない。只月經前から心身の過勞を避け、月經中は靜に安臥する樣にし、或は下腹部に濕布繃帶を當て、便通をとゝのへ、消化し易き飲食物を攝る樣にする。全身の衰弱を覺える時には早速醫者に診察て貰ふ。徒に通俗衛生の書物や、素人の言葉を便にして勝手氣儘の手前療治をなし、或は賣藥の廣告に欺されて恢復し難き後害を貽し、他日の悔ひを招かぬ樣にするのが肝要である。

人體の武裝

K、K生君

日清戰爭の時には旅順口は氣もなく陷落したけれども、日露戰爭の時にはなか〱さうは行かない、もう陷落だそれ降服だと云はれてからが半年もかゝつて居る、その上に吾々の同胞は萬古に比類なき程多く血を流して頗る苦戰した次第である。之は抑々何によるか、先に山路將軍が武勇絶倫であつて、後に乃木將軍の戰略が宜しきを得なかつた爲めであらうか、なか〱以てその樣な譯のあらう筈がない。然らば何故かと尋ねるのに、これ全く日露戰爭に於ける旅順口防禦の整頓して居た事に歸せねばならぬ、即ちあらゆる文明の智慧を振つて、考へに考へたところの防禦工事があゝいふ、結果を產み出したのである。

○○○○○○○○

吾々の身體は旅順口である、と云ふ命題は妙に聞えるかも知れないが、何も露西亞の領分になつたり或は日本の配下に屬したりするといふ意味ではない、其防禦工事の念の入つた事、又それが或程度まで完備して居る點がよく似て居るから假りにさう申したのであります。よく考へて御覽なさい、吾々の四周には、數知れぬ害物が、何時かは襲擊を加へやうと思つて絕えず隙を窺つて居るのである、のみならず日每夜每に吾々の身體に攻擊を加へつゝあるものは實に夥しいのであります、旅順口は日本が攻めたのであるけれども、吾々の身體は害物の聯合軍に、日夜包圍攻擊を受けて居ると云つてもよい。

斯かる狀態に居りながら、吾々が一向平氣で居るのが不思議である、いや、それよりも平氣で居られるのがをかしいてはあるまいか、處が、これには何の不思議もない、をかしい事もない、要は只前に云ふ處の防禦工事の一件である。旅順口の陷落の困難であつたのに驚いて、その工事作業の巧妙であつたのを感心する諸君は、自分自身の中に、如何なる仕掛けがあつて、每日安然な生命を續ける事が出來るかを硏究すべき責任があると思ふ。

吾々の身體は外來の害毒に對して正當防衞の設備と力とを有して居つて、決して無抵抗主義を唱へて居

るものでない事は右に申す通りの次第である、この設備と力とに因て、吾々は幸にして病氣を免れる事が出來るのである、さもなければ毎日〳〵病氣に罹つて、五十年は愚な事、一年の壽命も六ヶしいかも分らない、よし又敵軍が攻め込んで病氣になつたとした處て、その病氣を一局部に封じ込んで、決して暴威を逞しくせしむる事なく、終には敵を鏖にするなり、或は悉く放逐するなりして、再び全快する事が出來る。

此防禦の設備は即ち吾々身體の武装である、これは決して一樣てはなく、相手によつて品を變へる、その中には砲臺もあらうし、陷穽もあらうし、或は地雷火も鐵條網もあるてあらう。又外敵の侵入に對して、個々の設備が夫々の作用をなす「時」といふものも樣々てあつて、或者は極めて速かに、害物の未だ上陸をしない中に早くも擊退するといふ樣なのもあれは、或は既に侵害せられて一定の病的變化を起して後に、驚いて働き出すといふ樣なものもある。

外來の害物とは如何なるものであるか、その一々に對しては如何なる武装がしてあるか、次にその次第を簡略に申述べやうと思ふ。

(一)　溫度に對しては如何

吾人の外圍の溫度それ自身は害物でも何でもない、只それが餘りに熱いとか、或は餘りに寒いとかに因て害になりうるのは明な事て、寒ければ風を引き易いのは誰ても知つて居る事柄てあります。扨この溫度の變化に對しては身體は如何いふ風に防ぎを付けるか、吾々の腦の中には、體溫を宜い工合に調節して行く役目を有つて居る部分があつて、外界の寒熱に係らず身體の方へは略一定の溫度を保たせて居る、例へば外の溫度が甚だしく熱いとしますると、只ては吾々の體溫が外に向つて充分に捨てられない元來吾々の身體の全表面からは絶えず熱が空氣中に向つて逃げて行く筈てあるが、それが平常の通りに行かないとすれば身體の中には熱が餘つて來る譯になる、それて吾々は熱いと感ずる、其報知が溫度調

節の中樞に傳はる、中樞からは直ちに命令を發して全身の皮膚にある血管に開張を命ずる、熱を擔つて居る血液はドシ〱皮膚に集つて來る、皮膚は紅色を呈する汗が出る、熱は盛んに放散する、これで漸く體溫の平均が取れる譯になる。若し又外が寒いとなると、これと正反對で、さう多分の熱に逃げられては熱の製造元が間に合はない、そこで皮膚の方から「寒い」といふ報知が中樞に傳はれば、此度は皮膚の血管に向て「收縮」の命令か下る、皮膚も同時に收縮して皺が出來る、皮膚の色は蒼白になる、熱を擔つた血液が澤山に來ないから、其放散は著しく減じて、こゝにも體溫の平均が保たれるのである、若しこの中樞がよく働かなければ熱くつても寒くつても逃げ出す熱の量は相變らずで、その結果は恐るべき事になる、泥醉者が寒い處へ寢て居て凍へ死ぬのは、全く二の中樞の麻痺によるのであつて、健康な人ならば此際大に堪える事が出來るのであります。

（二）外界の暴力に對しては如何

外界の暴力と云ふものは、實に數へ盡されぬ程澤山あるもので、程度も亦夥しい差異がある。處が高度の機械的暴力に向つては、吾々の身體には殆ど防ぎがないと申さねばならぬ、常陸山や梅ヶ谷の樣な偉大なる體格を以てしても、汽車や電車に衝突したり、大きな岩に埋められたりすれば如何する事も出來ないでありませう、又若し吾々の身體が鋼鐵製の樣な丈夫なものであつたらば、戰爭をして鐵砲を擊ち合つたり劍を以て斬り合つたりする事は誠に馬鹿げた、意味のない事になるであらう、幸か不幸か、吾々にはこの種の暴力に對する備へはない。然らば外力に對して吾々はまるで無抵抗力かといふに決してさうではない、或程度までの暴力は隨分よく耐へるのである、最も危險な指の先には爪があつて立派な防禦の道具をなして居る、これがなければ吾々は毎日どの位のあぶない思をするか分らない、のみならず、或動物などになると之が唯一の武器になつて居る、吾々の頭には毛髮が生へて居る、これも單

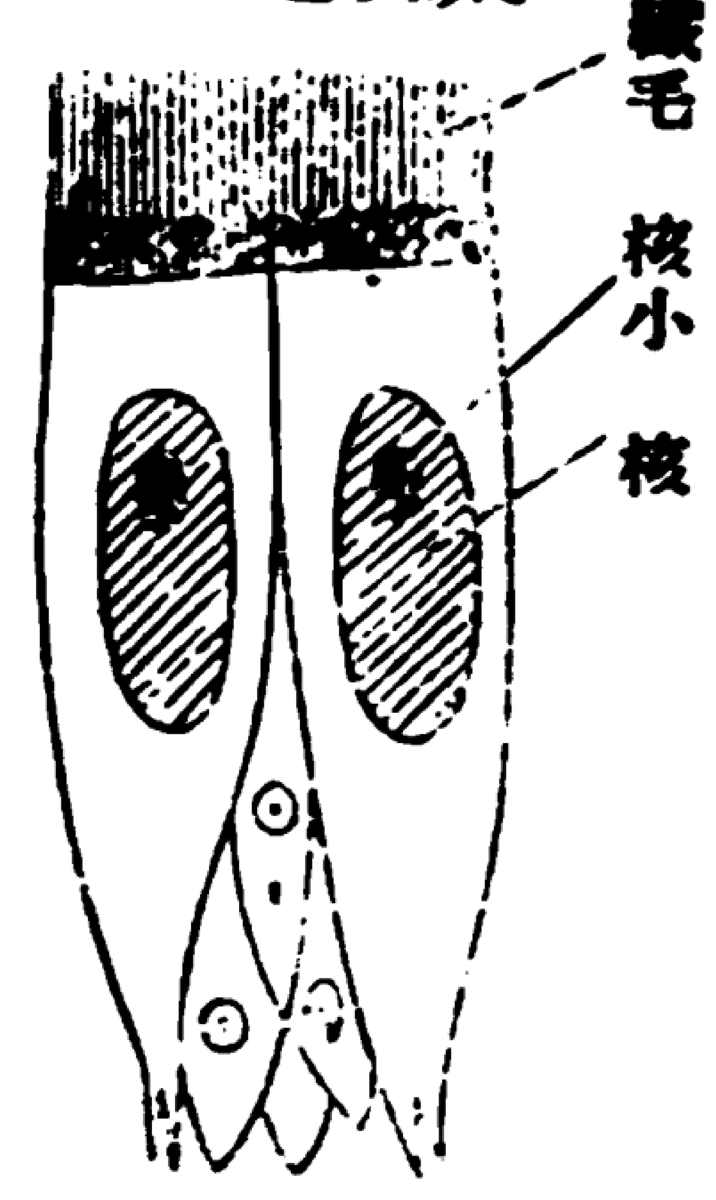
に裝飾の爲め許りに存在してゐるのではない、頭は特別に大切な部分であるから殊更念を入れて家根まで葺いてある、何か頭へぶつかつても、頭髮の濃さために怪我を免れる場合は澤山ある。吾々の皮膚全體には、他の多くの動物の樣に盛な毛が生へては居らない、鰐魚の樣な鱗片もない、龜の樣な甲もない觸れて見て柔かな皮膚ではあるけれども、これでなか〳〵丈夫である、柳に風折れなしといふ樣な譯でフワリ〳〵して居る處が確かに損傷を受けない一つの源因に相違ないが、一方から見ると、其彈力の中にはもつと積極的な強健がある、拳を固めてヤッと打てば、四分や五分の厚みある松板はポカリと破れる、それでも手の方は少々ピリ〳〵とする位で一向平氣である、吾々が柱へ衝突しても、滑つて轉んでも餘り怪我をしないのは、皮膚の丈夫な御蔭だと思はなければならない。

(三)　外來の異物に對しては如何

吾々の身體は、生れてから死ぬまで一刻の間斷もなく、外國と盛なる互市貿易をやつて居る、或はドシ〳〵外國品の輸入をして居る、肺の瓦斯交換、腸の吸收作用等は即ちそれである。然れどもこの間に於て、吾々に有害なものには入國を許可しない、さういふものに對しては、永遠の將來に至るまで、嚴重なる攘夷主義を執つて行くのが吾々の身體の憲法である。

例へば今、細微な固形體が、關門の目を晦まして呼吸器の中へ這入り込んだとすると、そこにある表皮細胞が早くもこれを見咎めて「ドッコイ待て」といふ譯で、組織内へ進入する事を許さない。吸器にある表皮細胞には纖毛といふものが、刷毛の樣に生へて居て、間斷なく外へ外へと波をうつて居る、この運動のために折角這入り込んだ物體も再び外へ追ひ出されて仕舞ふ。それ許りでなく、表皮細胞の中

纖毛細胞



には粘液を製造するものがあつて、小さな物體は造作もなく粘液の中に包まれて仕舞ふ、一寸捕縛てもする樣な譯である、吾々が朝起きてオホンと一つ咳拂ひをすると、コロリと轉び出す痰は取りも直さずそれである、この痰を能く御覽なさい、薄黑い樣な塵を一杯持つて居ます、これは吾々が前の日に知らずに吸ひ込んで置いた塵であつて、この中には隨分結核のバチルスも肺炎の黴菌も、その他の危險な物體も含まれて居ないとは限らない、吾々の氣管から肺臟に至るまでの表皮の細胞は、夜業までしてこれを片付けて吳れるのであるから、扨々有りがたい次第だと申さねばならぬ。

腸の方には纖毛細胞はないから、上の方へ逆戻しに追ひ返すと云ふ事はないが、さりとて固形の物體を身體組織の中へもぐり込ませる樣な事はしない、「立つてはいかん、サッサと罷り通れ」と云つた樣な勘定で通行だけは差し許し、ドシ／＼肛門の方へ送り出して仕舞ふのである。

處が、粘液膜に、妙な事をする細胞が出て來る、この細胞は游走細胞と名けられるもので、平生はあつちへぶらり、こつちへぶらり、組織の中をうろつきまはつて居るが、偶々粘膜の表面あたりへ出かけて來て、何か異物でもあると、これは面白いとでも思ふのか、直ぐ引捕まへて食つて仕舞ふ、この細胞はこの儘て粘膜の外へ出て、體外へ抛り出されて仕舞ふと、誠に都合の宜い、大切な働きであつて、町を掃除して步く人夫の樣な譯合のものであるが、肺の中では此奴が屢々逆戻りをして、異物を食ひ込んだ儘、又ソロ／＼と中へ引込んで仕舞ふ事がある、さうすると肺の組織の中には、年をふるにつれて、塵が蓄積して來る勘定で、これは餘り有りがたくない次第である。

異物が、どうかして淋巴管の中へ落ち込むか、或は右申した樣な譯で、外の細胞に捕まへられて、淋巴腺まで行くと、彼等はその儘こゝに拘留せられるのである、淋巴腺といふのは、吾々が頸の兩側、腋の

下、その他の部分て、所謂「グリグリー」と唱へる處のものてあつて、これが身體の深い處にも澤山にあるのてあります、身體の中に這入つて來た塵は、淋巴腺に抑留されるのてありますから『グリグリー』は吾々の身體に於ける塵篩だと申しても差し支へはない。これがなければ、塵は遂に吾々の血液に入り、延ては外の器官へも進入して、身體の中の方がスッカリ塵だらけになるてありませう。　（つゞく）

活ける家（續き）

醫學士　渡邊房吉君

（十）活ける家の家政家

二三日を約して親元へ泊り掛けに行つた細君の留守て、シミ〴〵と不便を感じた家の主人は、或日友人に向つて左の如く云つたそうてあります、「妻と云ふものは家にあつて毎日何も爲ない樣てあるが、實際多くを爲てゐると云ふ事が、今になつて漸う思ひ當つた」と。實際一と度家政の事務に關係つた者てなければ、家政家と云ふものが如何に忙がしいかと云ふ同情の無いものてあります。家政家は眼を皿にし、足を擂り乙木にし、家の內外を淸潔にして秩序を整へ、家族一同に適當の食品を備へ、四季折々の衣服を給し、爲すべき事と爲すべからざる事とを監視し、不用不潔の廢物は速かにこれを排除する樣に氣を配るなど、男子の仕事の樣に派手てはないが、中々に隱れて忙がしい氣骨の折れるものてあります。

我が活ける家に於ても同樣に忙がしい家政家があつて、日夜身體各部を巡ぐり、その維持と生長とに必要な榮養品を供給するものて、骨には骨を組立てるに缺くべからざる材料を與ふ、肉には肉を組織するに必要な滋養品を給するものてあります。若し此供給する材料にして不足勝ちてあるか、或は品質が不良てあれば、身體は漸次衰弱して遂に病氣を釀す

のであります。此重要な任務を帯びて居る活ける家の家政家の名を

血　液

と云ひ、紅の衣を纏ふて活潑に左の心臓より出發し、全身を循環して、到る所の組織に榮養品を分配し、其代りに排棄すべき不用物を受け取りて之を肺のところに持ち行き、再び之を肺に渡して呼吸によりて呼出して貰ひ、更に酸素と云ふものと交換して、一旦左の心臓へ歸り、又も全身を循環するものであります。此

血液循環の道筋

を血管と云ふので、腸胃と云ふ食堂及び庖厨から調理せられた榮養品と、肺から渡された酸素とを含んでゐる良い血液の通る道を、一般に

動　脈

と云ひ、大通りから横町裏町と漸々せまくなる様に、遂に細い路次となるこれを

毛細管

と云ひ、こゝで榮養品と酸素とを身體の組織に與へ、不用品を受け取り、不潔な血となつて再び心臓へ戻る道が

靜　脈

と云ふのであります。若し血液の循環が其道中の何處かで妨げられることがあれば、血液の來なくなつた部分はだん／＼に腐れ落つるものであります。脫疽と云ふ病氣は讀者諸姉のうち御存じの御方の多いことゝ思ふが、これも血管の病氣のため血液の循環が惡くなり、遂に足の尖から腐れる様になるものであります。

卒中或は中氣

と云ふ病氣も腦に行つて居る動脈が破裂して、最早や血液の循環しない様になるから起るので、殊に四十歳以後の老人に多いものであります。すべて血液循環の活潑である程その組織も健全なものであるが、只皮膚の表層にある上皮と、眼球の表層にある角膜と、手足の爪と、全身の毛髪とには血液が

循環して居らぬ、これは淋巴液と云ふものから榮養を受けて居るからであります。

全身の血液の重量

は體量の殆ど十分の一程あるもので、十貫目の體重の人には一貫目程の血液があると云ふ割合であります。其全身に分配されてゐる割合は四分の一が心臟肺及び血管の中、四分の一が筋肉の中、四分の一が肝臟の中、殘る四分の一が其他の部分に散在してゐるのであります。血液の循環は極て迅速なもので全體の血液が一度び心臟を通過し終るに僅か四十八秒間、即ちザット一分間以內である。故に毒蛇害蟲などに手足の尖を嚙まれるか、或は昔野蠻人の用ひた樣な毒矢などに擊ち當てられることがあれば、痛いと云ふ間に此毒は全身に擴がつて最早や恢復のつかぬ樣なことが多い。故に

斯る場合に於ける應急の手當

としては、有り合ふ手拭ひか、手巾か、帶、紐などで傷を受けた所よりも上部の方を緊く縛つて、血と共に毒が全身に廣がらぬ樣に喰い留め、更に傷口へ口を當てゝ毒を吸ひ出しては吐き出すのであります。

怪我をして血出ときの手當

も之と同樣に取敢へず怪我よりも上の部分を緊く縛らねばなりません。餘り多く出血すれば之がために生命を失ふ場合は少くない。此の如く血液は人體生存上極めて重要なものであるから、古來何れの國民も

血液に就て種々の迷信

を懷いたもので、多くは之を以て精神の宿つて居る靈液であると考へ、出血が多くつて死ぬ樣になるのは血液と共に精神が失はるゝためであると說明し西班牙の僧侶ミカエル、セルヴイエーと云ふ人は精神を搜がし當てる爲めに限なく血液を調べたと云ふし、有名なハーヴエーと云ふ人も「精神力は靜脈ては弱く、動脈では強く心臟では最も強大である」と云ひ、又「血液と精神とは決して離るゝことの出

來ぬもので、精神の無い血液は最早や血液たる本性を失つて、その用をなさず、無力にして滅ぶべきものである」と云ひました。又斯る迷信から一時世の中に

血液交換

と云ふ一種奇妙な風習の流行したこともありました。血液交換とは自分の惡い血を捨てゝ他人の良い血を貰ふと云ふことゝて、例令ば此處に智恵が無く、能力が無く、愚かで困ると云ふ者があれば怜悧賢明にならんが爲めに、爭つて氣力才能の優れた者から血を貰つて之を自分の血管内に注射したり。暴虐非道の惡人があれば之を改善しやうとして、柔和なる小羊の血を取つて飮ませたり。若い美人の血を取つて皺だらけの婆さんに飮ませて、花のかんばせ月の眉と云ふ昔しの容姿に復さうとしたりするのて。マルシユース、ヒフチヌスと云ふ人の如きは、若い人の血を取つて藥を拵へ、之を『不老藥』と名づけたと云ふ樣な途方も無き奇談もあつたのてあります。

體重の十分の一程ある血液は、普く全身に分配されて居つて、夫れ〳〵の場所に於て其組織に必要な成分、たとへば神經や腦には燐を、骨には石灰質及び曹達を、筋肉には蛋白質と云ふ風に與へるものでありますが、又血液には長短相補ひ、緩急和救ふと云ふ義俠的性質のあるもので、若し身體の或る部分が忙がしく働くために、血液が澤山なければならぬとなれば、他の忙がしくない部分の血液が我も〳〵と助太刀に行く。例令ば一生懸命に力業をすれば全身の血が筋肉に集つて來て、時としては腦の血が不足になり

腦貧血を起し

蒼白になつて倒れる程になり。眼を使へばそこが充血して赤くなり。食事の後には食物を消化するため血が胃腸に集つて來る。精神を勞すれば腦に充血する。古來『腹の皮が緊張れば眼の皮が弛む』と云ひて、一般に

大食の後で眠くなる

のは、多量の血が胃に集つて腦の血が乏しくなるからて。精神を使ふ人に消化の惡いと云ふ人の多いのは、之と反對に胃に行くとき血が腦に集つて仕舞ふからてあります。

食事の後てすぐに勉強してはならぬ

と云ふのは、全く以上の理由があるからてあります。若し同時に胃と腦とを使ふことになれば、兩方共同時に血液を要することゝなり、其害は少からぬのてあります。故に衛生上必ず左の原則を守らなければならぬ、即ち

食後少くとも三十分間は安靜にして、身體及び精神を使はぬ樣にする。俗間て『親が死んても食休み』と云ふ樣に、食後二三十分位寢るのも良い讀書或は其他の事て精神を使つた後には、暫く氣を落付けて安靜にし、或は少しく庭などを散歩して腦の充血を治してから、徐々と食卓に向ふ

一滴の血を取つて顯微鏡て覗いて見れば、其中には數知れぬ澤山の小球がある。中央の凹んて邊緣の厚い、扁平くて澤山ある赤いのが

赤血球

と云ひ、動物の種類によつて其形狀大小等が異るものてあります。故に犬や牛の血を取つて人の血だと云ひくるめる事も出來ず、反對に人の血を流して置き之は犬を殺した血だなどと云ひ逃れる事も出來ぬのてあります。裁判上醫者の鑑定が必要てあると云ふのも之が爲めてあります。

赤血球よりも大きくつて數の遙に少いのが

白血球

て、此白血球は恰も體內の巡查の樣な者て、黴菌なり病毒なりが體內に入れば直に拘引ると云ふ役目をなすものてあります。故に白血球の力が非常に強ければ虎烈刺もペストも赤痢病も肺病も、皆其力に喰ひ伏せられて流行するに至らない筈てあります。

血液が汚れて居れば精神も不潔てある。精神を純潔にし、身體を強壯にし、世に立つて天晴れ有用の人とならんとするには

血液の養生
に注意しなければならぬ。血液養生の第一義は

新鮮なる空氣を呼吸する

と云ふことであります。我國の御婦人方は兎角に引込み勝ちて、門の外へは踏み出さぬと云ふ風習がありますが、ドーカ勇壮活潑に野外の散歩でもなさる樣にお勸めしたい。血液養生の第二義は

滋養ある食物を攝取する

ことであります。由來血液は食物から造られるものであるから、食物が清潔て滋養に富めば、血液も亦同樣に清潔て滋養に富むべき筈てあり、食物が不良て榮養分が無ければ、血液も餓へて生氣に乏しくなる譯であります。血液養生の第三義は

身體を日光にあてる

と云ふことであります。木陰の植物は生氣に乏しい樣に、深窓に生ひ立ち給ふて日の目に當り給はぬ方は、たとへば弱竹のなよ〳〵として風にも得堪えぬ姿であります。血液養生の第四義は

潔き汚れぬ眞清水を飲む

と云ふことであります。咽喉の渇くと云ふのは身體組織に水分の足らざるが爲めて、之に供するには清き水を以てしなければならぬ。ビール酒類はアルコールを含んで居るから却て組織から水分を奪ふ。酒客が醉の醒める頃しきりに水を求めるのは此ためてあります。

不幸なる夫妻（續き）

ふ、く、君

第四　麻疾

之れも亦梅毒に負けず劣らずの恐ろしき嫌ふべき疾患て有ります、婦人の麻疾は通常消渇と云はれて居ますが、之れは全く同じ物てありますから茲には凡て兩方を同時に御話しましやう。麻疾は世間ては梅毒の一種だと考へて居る人も隨分ある樣て有りま

すが、之れは全く別の物で黴菌の作用で男女の尿道に炎症を起す病氣でありまして、之れに感染すると三日位で起つて來る殆んど耐えられない程の燃える樣な痛みが時々起り、尿通の時にも痛み、膿汁流れ出て、痛みの無い時にても歩む事が不便に成ると云ふ樣な有樣で有ります、一時劇しき急性の症狀が去つて後は潜伏狀態と成つて長く續く、其間に漸次尿道が細くなつて尿通が意の如くならぬ樣に成て來るので有ります、重き時には内部の種々の生殖器をも侵し疼痛の範圍も廣く度も強いので有りまして、其他又病氣は局部に止らず身體の諸部に種々の病狀を呈して來ます、其中最も多いのが關節炎殊に膝關節炎に最も多く急に起つて非常に痛いもので有ります。さて此痳疾は甚だ傳染し易いものであるが其傳染の順序はと云ふに、痳疾は前申しました通り急性症狀が去つた後には所謂潜伏期と成つて慢性のものが長く續くので有りますが他に傳染しますが、此急性の時では無く却て慢性の時で有ります。一體生殖器の粘膜は非常に皺の多い物で有りまして、此中に入つた黴菌は容易な事で取れるものでは無く、殊に婦人のは長く殘りまして、何年でも何年でも慢性に殘つて居りまして、それが何時でも傳染する力は極めて強いので有ります。而して又慢性のものから傳染したのに慢性に起るかと云ふと左樣では無く、凡て始まる時には必ず烈しき急性症狀を以て來るので有ります。此樣にして夫妻の間には何れにか痳疾があらば必ず他方にも傳染するので有りますから、治療をするにしても一方だけ治療したのでは少しも功が有りません、時には始めに夫のが妻に傳染して其後夫は長く旅行でもして居て其間に全く治癒して居て歸つて來ると妻の方に殘つて居るから直に又夫にも再發すると云ふ樣な有樣で兩方で治せんとしては傳染し〳〵し何年も續く事になるので有ります。又痳疾の傳染するのは同衾に由つて起るばかりでは無く、湯に共に入て起る事もあり、手拭を借りてうつる事もあり、同じ床の中に寐たばかりで親の

病が子にうつる事もあり、兎に角絶えず膿が出て居るので有りますから常に傳染の機會は有るので有ります、だから此痳疾の恐ろしさを世間の人が十分に知らぬと云ふ事も亦之れの傳播の一原因と成つて居るので有ります男子に痳疾の多い事は勿論て有りますが、婦人科專問醫の統計によると凡ての婦人科の疾患の内て十人に一人か五人に一人かは必ず痳疾て有るが、患者は左樣とは知らずに居るとは實に恐るべき事てあります。夫妻の間に在つて以上よりも尚恐るべき痳疾の影響は不姙と云ふ事て有ります、女の痳疾を持てる人には子の出來ぬ人が多い、夫婦共達者て有るのに何故子が出來ぬのてあらうかと不思議に思ふばかりて、昔の痳疾が慢性に殘つて居る爲てある事には氣が附かない、時には又男子が若い時に痳疾を得て、それが慢性に成たのを治癒したものと思つて居る。無垢の處女を得て妻とする、直に痳疾は傳染する、幸にあまり烈しくは起らずに排尿時の疼痛位で濟む痳疾がうつツた事とは夢にも知らぬ、一年經つ二年經つ三年五年を經つても一向子が無い、夫は怒る妻は心配しても何とも仕方が無い、終に子無きは去るの文句通り離縁沙汰と成る、妻君こそ實に氣の毒な次第て有ります。若し又幸にして子が生れたにしても母に痳疾がある時には盲目の子が出來る事が往々ある、是れは分娩の時母の局部を通る際に毒が眼に入つて直に目が盲るので有ります、分娩の時に限らず痳疾の人の膿は誰の眼に入ても目を盲すもので有ります、實に恐ろしい毒て有ります。家の中に一人此病人が居たら夫妻の間のみてなく何時誰に傳染するかも知れませぬ。此恐るべき痳疾の來る根元は矢張重に醜業婦の間に在るので有りますから、之れの傳播を防ぐ爲には娼婦等を十分に取締らねばならぬ事は勿論て有りますが、世間の人が先づ今少し此病の恐ろしさを知らねば成りません、若し此病を自分に得たと云ふ自覺か又は疑でもあつた時には妻に近づく事を嚴禁するは勿論家庭に於て十分の注意をし一方醫師に就きて治療を急ぎ全

く根治するまでは怠らぬ樣にせねばなりません。又結婚をする樣な場合には、自分が曾て此病を得た覺えのある人は先づ直ちに醫に行きて、其病の殘れるや否やを十分に確めて、全治せりとの確證を得た後に始めて婚を結ぶべきて有ります、之れ即ち其最愛の妻たるべき人に對して爲すべき當然の義務て有ります。

第五　不姙

昔の人も「子無きはさる」と迄云ふて有ります位て、子を產み子孫を作ると云ふ事は夫妻の第一の務て且つ又第一の樂て有りますから、夫妻の間に不姙程不幸な事は有りますまい、統計によりますと世間の夫妻の間に此不幸な人達が十組の內に一組宛は有るとの事て有ります。普通不姙と云ふのは婚後四年間同棲して子の無き時に云ふので有ります、其後に成つては最早出來る事は至て稀て有ります。不姙を起す原因は隨分澤山有りますが、其中の三分の一は夫の方に罪があるに由るので有ります。扨て其夫の方にある原因とは何て有るかと云ふに、勃起不能や生殖器不具等の局所的の原因から來る生殖不能や一般の重病、中毒、房事過度或は神經的に來る生殖不能や、時には又作用には少しも差支は無いが局部の局所的障害や全身の異常の爲に精液を漏らす事の出來ぬのもあります、時には又精液は出ても其中に精虫の居らぬ事が有る、之れは痳疾の者に來る事が有ります。次に婦人の方に來る原因ては、局所の種々の不具や障害等によつて生殖不能のもの有りますが、多くは受胎作用の不能或は困難て有ります、其全く不能なのは子宮口や喇叭管の閉塞、卵の產出せざる等て有りまして、困難を起すのは一般の病としては脂肪過多、萎黃病、中毒、惡液質等で有りまして、局所の病としては、子宮口の狹窄、子宮の轉位、子宮內膜炎、子宮癌、粘膜下筋腫、喇叭管疾患、卵巢腫瘍、子宮部腹膜炎、骨盤腹膜炎、陰門哆開等によりて來るもので有ります而して又此處に記した病氣の原因にも又結核性のもあれば梅毒性のもあり

痲毒性のもありと云ふ樣に澤山有りますから、不姙の原因はなか〱複雜て有りまして、素人が早合點する樣な譯には行きません、最早とても子は無いものと覺悟して居た人が醫者に見せると案外簡單な原因て有たので直に治癒して子を得たと云ふ樣な例も隨分ありますから、不姙の人は自分には病氣は無いと思ても必ず先づ醫に就きて十分診察して貰ひ、少しも異常が無いと決定したら次に其良人の診察を乞ひて不姙の原因を明にせねばなりません、其上如何しても仕方の無いものならばそれ迄だが、譯も分らずに棄て丶置くのは愚な事て有ります以上の原因の中にも醫藥に依て恢復し得べきものは澤山あります。

講義

衞生學大要（承前）

醫學士　河野衞君述

家屋に就きての極く大體の事を以上ザット申し述べました、家屋にも色々な種類がありまして、西洋の家屋と日本の家屋は全然違ふて居る是れは成程西洋は何事も進歩して居りますから、家屋の建築も完備して居り、市街の整頓抔凡て我國と比較は出來ない位に發達して居りますが、一方から言ふと是れは風土氣候上の支配を受けて居るが爲めに、即ち必要上斯くの如くに進歩し完備して居る點もあるのでありましよう、それて西洋家屋の特長もあれば、又日本家屋にも日本の風土氣候に適する所の特長も備はつてあるのてありますから、吾々は其特長を採ると

言ふ事にしなければなりませぬ。

日本の家屋にも種類が色々ありまして、例へば木製のもあれば、煉瓦を雑へたのもあり、西洋風にして、木造のもあり、或は土造のやうなものもあり、屋根を葺くにも薄い板で葺くのもあれば、草葺もある、或は瓦葺もあります、家を建てる時には土地に石を入れて堅めて、此上に建築する、是れが所謂地石であつて、此上に柱が立つて、之れが家を負擔して立つ事になる、床の下には空氣の流通する空間があつて、外氣を自由に交通して居る、床の上には疊を敷き、壁は竹と粘土とで造り、戸、障子、からかみを立てる、日本の家屋は西洋のやうに冬室内を溫めるといふ事は六ケ敷いけれ共夏は風の通りが宜しい、併し外から來る風雨を防ぐ事は西洋家屋のやうな具合には行かぬ、けれ共日本の土地では、完全な日本家屋であれば充分であつて、決して不都合は無い、西洋では土地が寒いから、あア言ふ堅牢な建築が必用であるけれ共、日本では狀況が違ふから、日本家屋で充分であります、併しながら、西洋家屋は甚だ便利に出來て居りますから、職業の性質、家屋の目的上から今日では西洋流の家屋が次第に多くなつて來ました、即ち個人の住宅の外に學校であるとか役所であるとか、工場であるとか、といふやうな所ではどうも西洋家屋でなくてはなりませぬ。

家屋の建築に就いては、色々な點に顧慮し、不均合の無いやうに勉めなくてはなりませぬ、無暗に廣い間を澤山造つても、之を利用する上に於て不便があるやうでは、何の役にも立ちませぬ、人の集まる家屋を建造すれば、便所の入るのは當り前の事であつて、西洋流の家を造るなら、暖房の裝置の入用である事も、當然な話であります、所が西洋流の立派な敎場を造つても惜い事には便所が造つて無かつたり、それから立派な建物を造つても如何なる理由か、暖房の裝置がして無い爲め、冬が來たら、早速立派な壁を破つて、烟出しをこしらへ、蒸氣暖房を裝置する事の出來る場所なるにも拘らず、暖爐を使つて

居るやうな所もあります、是れ等は家屋の建築上誠に不注意千萬な話してありまして、實用上の不便は固よりの事、美觀を傷くるの大なるものと謂はなければなりませぬ、斯ういふやうな不均合な事があつては折角大金を費して建てた家屋も一向價値がない事になります。

室内溫度調節法

是れから吾々の住んで居る室内の溫度を調節して吾々の健康に適するやうにする方法に就いて、少しく申し述べましよう、夏と冬とは室内溫度は固より甚しい差異がありますから、別々にして御話し申さなければなりませぬ、先づ

夏に於ける室溫の調節法

から申します、夏は言ふ迄も無く可成室溫を低くし、人の體内に溫の蓄積しないやうに、勉めなければなりませぬ、夏時に於て室内溫度に關係を及ぼすものは壁であります、壁は直接に太陽の直射を受けて、溫熱を吸收し、其れを以て室内空氣を溫めますから、室の中は常に熱い、そこで此壁の性質の如何に依つて、室内溫度が色々に變化します、さて壁が太陽光線を受ける時に、もし壁の色が白いと、熱を吸ふ事が尠いけれ共、黑色であるときは、餘程多くの熱を吸收します、之れから太陽光線が壁は直角に來る時には、熱の吸收せられる事が多く、時間が永いと又熱は多量に吸收せられます、夏は一番多く溫められるのは、西壁で其次は東、それから南壁は溫められる事が遙に少くて北壁は殆んど日光の影響を蒙りませぬ、それから壁が厚いときは、外面の溫が内部に傳はる度が尠くなります、夫故に夏は壁が厚くて東と西の壁の面積が小さければ、室の内は冷い譯であります、それから高い家屋は暑うありますから階數の少い方が宜しうあります、屋根と天井との間が長ければ隨て涼うあります、それて熱帶地方では高い平家を造り、屋根と天井の間を長くして、充分に空氣を流通させて、壁を厚くしなくつてはなりませぬ、其外に夏時室内を冷くする爲めに、冷い

空氣を送つたり、又は水を撒いたり、或は氷を置いたりする方法もあります、次には

冬に於ける室内溫暖法

に就いて御話し致しましよう、冬は室内も室外も寒冷でありますから、特別に室内を溫かくする必要があります、屋外では運動の爲めに、熱を發生する事も多い爲めに、割合に寒い空氣中に居ても之を感じませぬけれ共、室の内では運動する事が尠うありますから、其儘では體溫を調節する事が出來ませぬから、室内の溫度を適當にして、其平均を保つ事をしなければなりませぬ。

室を溫めるには、吾々の身體に心持の良い溫度の室内空氣を造り、そうして溫度の室内に平均に行き渉るやうにしなくてはなりませぬ、それから其溫は吾々に害になつてはならぬ、また室を溫めるには是れが經濟的でなければなりませぬ、即ち可成少量の燃料を使つて、可成多く室内を溫め且つ火災の危險の無いやうに工夫しなければなりませぬ、さて吾々の身體から溫熱の奪はれるのは、傳導と放散と蒸發とに依るのでありまして、室内溫度はどの位に溫むれば宜しいかと申しますと、それは室の目的に依て固より一樣でありませぬけれ共、普通室内溫度は、攝氏十七度から二十度を以て適當としてあります、小兒といふものは體溫の奪はれる事が多いものでありますから、少しく溫度を高くしまして、十八度から二十一度位にするのが宜しうあります、病室は十七度から二十一度それから熱の高い病人の室は少し溫度を低くしまして、十度から十五度位としてあります寢室は十二度から十五度位で宜しうあります、其他浴室は二十度から二十二度位にして置かなくてはなりませぬ、劇場の如き人の集合する所では十七度から二十度位を適當としてあります、小供の居間は十八度から二十一度に保つのであります、小供は大人に比べると體溫を奪はれる度が強うありますから殊に注意して室を溫かくして置かなければなりませぬ、又小供が呼吸器の病に罹つて、例へば氣管枝

加多兒肺炎、のやうな病に罹つて居る場合には、室内温度は注意して、ヨク温かに保ち、常に平均の温度の中に置かなければなりませぬ、少し冷くても病の上には極めて大なる影響を及ぼすものであります、凡て室の中は何所も平等に温暖である事が必要であります、火鉢の所は温かでも、他の隅の方の所が冷くては誠に不快でありますから、日本室では隅々に多くの火鉢を置いて、室内を平等に暖める工夫をしなければなりませぬ。

そこで冬期に居室を温めるには、無論燃料といふものが入用であります、其燃料としては、薪、泥炭、石炭、木炭、コークス、のやうなものを使用して居ります、斯ういふやうな品物を燃燒させて、温熱を發生さするのでありますけれ共、悉くが温を生ずるのでは無くして、酸化炭素、炭化水素、煤といふやうな物質を出しますから、充分の温を出す事が出來ませぬ、その外に温暖の仕掛けが不完全であると折角出來た温熱も他の方へ逃げ出して了ひますから、充分に室内を温める事が出來ないやうになります、それから空氣が不充分であると、燃燒が充分に行なはれませぬから、充分な空氣を送らなければなりませぬ、燃燒する物質は、炭素と水素とでありまして、之に酸素が來て結合すると、燃燒作用が起るのであります、それ故に完全に物が燃燒した時には最終の産物として、水と炭酸とになりますけれ共、不完全であれば、酸化炭素と炭化水素、煤を發生します。

室を温むる一番簡單な方法は、日光を室の中に入れるのでありますけれ共、此ればかりでは無論温暖の目的を達する事は出來ませぬ。

それで室を温める上に於て注意すべき事柄は、充分に温熱を出すやうな物質を用ひ、室内は温かさに過ぎぬやう、寒さに失せぬやうに注意し、燃燒生産物、煤塵埃、抔の爲めに室内を汚さぬやう、室内空氣は平等に温められ、室内空氣の乾燥とならぬやうにしなければなりませぬ。

それて燃燒產物は煙突から外の方に出す、事としなければなりませぬ、燃燒が不完全であつたり、溫暖裝置の不完全の爲めに燃燒產物が室內に入るときは、人の健康を害します、或は其爲めに病氣を惹き起す事もあります、歐洲ては此裝置の不充分てあつた場合に、瓦斯が室內に充滿し、隣の人迄に危險の中毒を及ぼしたやうな事のあるのは決して稀てはありませぬ、中毒に罹つた時には、頭痛を起し、不眠となり、身體が疲かれて、ボンヤリして來ます、此れは炭酸と炭化水素との爲めてあります、或は嘔吐痙攣を發する場合もあります。

是れから室內を溫める方法を御話し申しましよう、室內溫暖法には局所溫暖法と、中央溫暖法との二種があります。

局所溫暖法と申しますのは、室の中に於て溫熱を發生させまして、直接に室を溫める方法てあります即ち室內に火を置くのてあつて、日本室に使つて居る吾々の火鉢のやうなものを言ふのてあります、それから中央溫暖法と言ふのは、室外の一ケ所に一定の仕掛があつて、此所から各室へ溫熱を送るのてあります、西洋家屋にある鐵管裝置へ蒸氣を通じて室を溫める類を指すのてあります。

局所溫暖法ては薪や炭を燃燒さして溫熱を出すのてありまして、熱の放散て室を溫めるのてあります此れは極めて不利益てあつて、出た溫熱の大部分は他へ去つて了つて、殘りの極く僅かの部分丈けて室內を溫めるのてあります、之れから局所溫暖法ては薪や炭を室內に遣ひ込むが爲めに室內を不潔にし、且つ水、炭酸、酸化炭素、煤、煙、炭末抔が室內空氣に雜りますから、甚だ不都合てあります、その上往々にして中毒に罹つて死ぬる事もあります、局所溫暖法は斯ういふ不利がありますけれ共中央溫暖法ては一つの所から各室へ溫熱を送るのてありますから、室內空氣を汚す事はありませぬ、併し何所かに故障を生じた場合には各室一時に溫熱の供給を妨げられます、又費用も多く掛るといふ不利の點もあり

ます。
是れから局所溫暖法の御話しを致しましよう、田舍に行つて見ますと室の中央に爐があつて、此所で薪を燃やし食物を煮たり、湯をわかしたり、兼て一家族のものが茲に團欒して、溫つて居ります、是れは前に申しましたやうな燃燒產物が室內空氣に混じて非常に不潔であります、之れから火鉢を使つて此中に炭を入れて、室內を溫めるのが普通何所でも行はれて居ります、是れも爐と同じやうに、燃燒の爲めに出來る生產物が悉く室內空氣の中に雜りますから、西洋造りの家のやうに密閉してある室では中毒の危險があります、幸に日本家屋では室內と室外の空氣の流通が佳良でありますから此危險は尠うあります、火鉢でも爐でも凡て放散で以て室內を溫むる方法でありますから、火の方の面は暖かでありますけれ共、反對の側は壁杯から體溫を奪れますから、比較的冷く感じて不快であります、又薪を燃す時は、煙や煤で眼や鼻や咽喉の粘膜を刺戟して炎症を起し易うあります。
それから壁の內に煙突を裝置し、其所の端を室內に開き、此所で石炭、薪を燃やす時は煙は煙突から室外へ逸去し、溫熱は放散に依つて室內を溫めます併し其溫の多くは煙突から外へ出て行きますから實際室を溫める溫は極く僅かであります、此れを「カミン」と申します、是れも火鉢と同じやうに溫熱の放散に依つて室內を溫むる　であります から、溫か室內に平等に行き渉りませぬ、又發生した溫の大部分は逃げて行きますから、甚だ不經濟であります、それて歐洲でも寒氣の甚しい所では用ひられて居らぬ相であります、併しながら「カミン」でも煙突の外部に今一つの管を掛けて、其管の上部を室內に口を開いて、そうして煙突と此外管との間に空間を殘して置くと、其所の空氣が溫められて、室內に行き渉ります、そうして外からは之を補ふ爲めに新鮮の空氣が入り、此れが又溫められて室內に入るやうな裝置があります、是れをガルトン氏の「カミン」とい

ふのであります、之は前に御話した「カミン」よりも優つて居ります、それから煖爐はよく方々で用ひられて居ります、是れは鐵で造つてありまして、燃料を入れる口と空氣を送る口と、それから上の方には煙突が具へてあります、煖爐では煙突を長くして、装置を充分にするときは、發生した溫熱の半分迄を利用して、室内を暖める事が出來ます、煖爐も矢張り放散で室を溫めるのでありますから、室内が平等に暖まりませぬ。

煖爐には大抵石炭を使ひますけれども、此外に瓦斯を使用する方法もありますが此場合には、燃燒の爲めに生じた生產物は室外に導き去る仕掛けが必要であります、

其他煖爐にも色々の種類がありまして、石炭を一時に多量入れて、徐々に燃燒させる方法があります、或は氣通を良くして、溫められた空氣を以て室内を溫める裝置をしたのもあります、或は外の新鮮空氣を導き入れて氣通を良くする仕掛のあるのもあります、それから瓦斯を用ふる煖爐にも種々あります。

獨逸では「カッヘル」暖爐と唱へるのがありまして煉瓦から出來て居て、表面は瀨戸物のやうなもので被はれてあり、其内部には種々な區別を設けて、煙突に通ずる迄の道を延長してあります、此の裝置では僅少の燃料を使つて終日溫暖を取る事が出來ますけれ共急速に溫めるといふ譯に參りませぬのと、それから氣通の良くないのが不利益であります、是れは歐洲の寒い國で用ひられて居るものであります。

それから朝鮮で行はれて居る溫突の事を御話し致しましよう、是れは小池、中濱兩氏の報告せられた所であるそうであります、それは如何なる構造であるかと言ふと、床の下に發溫の裝置があつて、數多の縦の溝があつて、前と後とは各々一の口に合し、前の口の所で燃料を燒けば、後の口は煙の出る所でありまして、之れが煙突に通じて居ります、それから其溝の上には石を敷いて、其上に粘土を塗り、其

上に紙を張つてあります此所が室の床となるのてあります、そこで前の口の所で火をたくと、煙は溝を經て後の口から煙突へ出て行き、その間に床を溫めるのてあります、此裝置ては燃燒生產物は室の內に雜りませぬし、又室も平等に溫められますから極めて都合が宜しうありますけれ共、溫度があまり高いとあつくて、室內に居られぬやうな事もあるそうてあります。

日本の家てはコタツが廣く用ひられて居りますけれ共、コタツは種々の點から考ふるに極めて不都合のものてありますから、宜しく之れを廢し、その代りにユタンポを用ふる事にした方が遙に宜しうあります。

是れから中央溫暖法の御話しを致しましよう、學校てあるとか病院てあるとか圖書館てあるとかいふやうに、多人數の居る廣い家ては、どうしても中央溫暖法を用ひなければなりませぬ中央溫暖法ては色々な利益があります、それは一ヶ所て溫熱を發生せしめ、一ヶ所て調節して行けば各室平等に溫められ燃燒生產物の爲めに室內空氣を汚す事も無く、至て便利なものてあります、それて中央溫暖法にも亦色々の種類があります。

空氣溫暖法といふのは鐵製の煖爐を具へて、空氣を溫め、管に依つて、此溫められた空氣を各室に送る方法を言ふのてあります、此發溫室は家屋の最下層に設け、此所に他の一管を備へて、外の新鮮空氣を導き入れ、之を溫めて各室に送るのてあります、溫まつた空氣には更に適當な濕氣を與へなくてはなりませぬから、金盥に水を盛つたり、又は水に浸した布片を吊したり抔の裝置を設けて、溫暖空氣に濕氣を與ふる事をするのてあります、そうして各室に送る空氣の溫度は五十度を超えてはなりませぬ、それから溫暖空氣の室內に入る口は人の頭よりも高い所に設けて置かねばなりませぬ、以上申し述べましたのは、熱い空氣て室內を溫めるのてありますが、蒸氣を以て室を溫める方法があります。

蒸汽溫暖法と申します、此法は蒸氣を發生させる汽罐と、鐵管と、それから溫暖裝置とを要します、さて家の下室に蒸汽罐をすへ付けて、玆て蒸汽を發生せしめ、此蒸汽を鐵管を以て、家の最上部に導き、其所から各室に備へてある溫暖裝置に導くのであります、その時に蒸汽が一部分熱湯となる時に熱を發生しますから。此熱を以て、室內空氣を溫めるのであります、そうして各室を通つた蒸汽及びその凝集した水は排泄管を經て外の方に除き去る仕掛がしてあります、その次には熱湯を以て、室內を溫める方法があります、是れを

溫水溫暖法と申します、此法は湯を鐵管に導いて、それて室內を溫めるのでありますから、湯罐と鐵管とそれから湯溜、溫暖裝置とを備へます、湯罐は家の下室に置いてありまして、玆て湯を造り、此湯は鐵管を通つて、室の上部に行き、湯溜に入り、此所から鐵管て各室の溫暖裝置の中に入るのであります、そうして室を溫めて冷却した湯は又鐵管て他に排除するやうになつて居ります。此溫水溫暖法に能く似たもので

熱水溫暖法といふのがあります、此法ては湯罐、湯溜、溫暖裝置抔を備へずして、全體が煉鐵管から出來て居りまして、中に湯を充たしてあります、其下端は蛇管と謂つて、螺旋狀に曲げてありまして、外から熱すれば熱水は上方に昇り、玆から枝が分れて各室に入り、溫を與へて、冷却したものは之は又合して、一大管となり、下りて前の蛇管の下部に續き又た熱せられて上方に行くのであります、以上先づ溫暖法の極く大略の形式丈けを御話し申したのであります、此れら章を改めまして

採光法

といふ事に就いて御話し申しましよう、採光法と言ふのは室內に光を取つて、明かるくする方法を指すのであります、日光といふものは人の健康上極めて大切なものでありまして、醫者が或る疾病を治療する上に於ても、此日光を用ふる事は中々に多うあり

ます、病氣といふものは世人の考へて居るやうに、單に藥ばかりて治るものでなくて、藥の外に衞生的條件といふものが中々に大した効力を持つて居るものであります、日光の大切なるは獨り病者にのみ必要なのではなくして、健康な人にも亦一樣に大切であつて、動物、植物の生活上極めて大切なものであります、日光の當らぬ暗い所では人の炭酸排泄量が減じて來ます、即ち日光は新陳代謝に關係のあるものであります、天氣晴朗の日には何となく心身爽快で食慾も進むが、曇天であると、精神沈欝して、不快て、隨て食慾も進まぬものである事は皆樣が常に御經驗のある事てありましよう、御承知の通り植物の葉綠素といふものは、炭酸を取り、日光の働きて、酸素を放ちます、北極地方で冬は全く夜てあるやうな所に居ると、始めの間は精神が沈欝して來ますが、その次には過敏となり、皮膚の色は蒼白となり、消化器の病を起すといふ話してあります、それから日光の入らぬ暗い室ては種々な黴菌がヨク發育し、その爲めに室内空氣が不潔にせられ、暗い所では病原菌が久しく生活を續けますから、傳染病患者の居た室では永く病毒が殘つて居ります、又暗い所では不潔物が充分に見えぬ爲め、掃除が行き屆かぬといふ事もあり、殊に室が暗いと、近視眼を起すやうになります、近視の原因は種々ありますが、光線の不足といふ事は主なる原因の一つであります、今日は昔と違つて、學問をする人が、心身を勞する事は誠に甚しうありまして、微細なる仕事に從事しますから、それはかりでも近視になり易いのに、此上光線不充分とあつては實に堪りませぬ、今日は電燈が盛に用ひられて居りますけれ共、燭光の小さい電燈ては何の役にも立ちませぬ、私は寄宿舍抔て光りの極めて不充分な電燈の用ひてある所を見た事がありますが、ソンナ事では費用を掛けて電燈を使ふ必要はありませぬ、成程洋燈ては危險があるからといふので電燈を用ふるのでもありましようが、併し同時に眼の方の衞生をも考へて貰はなくて

は誠に困つた次第であります、以上申し上げました如くに光りの不充分な室は衛生上實に不都合であります、社會でも、不良の方面の事を暗黑面と申しまして、凡て暗といふ事は宜しくない事であります、それで是れから室内に光を入れる方法を御話し申しましよう、先づ第一に天然採光法である所の

日光を採る方法

から始めましよう、日光は吾々の健康上極めて大切でありますから、室内には日光の射入が良く行はれるやうにしなければなりませぬ、それには色々の注意が必要であります、第一には窓の方向であります、窓は南に向いて居るときは、北向よりも光線がヨク射入します、隨て明かるうあります、併し目的に依つては北向の方が都合の良い塲合もあります、それは北方から入る光は弱いけれ共、變化が尠うありますから、便利の良き事があります、その次には窓の大さであります、普通窓の大さは床の大さの五分の一以上としてあります、併し窓は大きくても、外に光線を妨ぐるものがあつては、無論効能はありませぬから注意しなくてはなりませぬ、それから窓は天空が可成大きく見えるやうにしてなくてはなりませぬ、又室内の一點から窓の上部に引いた線と床面との間に出來る角度は二十八度以上でなくてはならぬ、此角を射入角と申します、此れを大きくするには窓を高くするのであります、その次には窓と反對側の壁と窓との間の距離も大切であつて、餘り遠いと光が充分に入りませぬ、それで其距離は床面から窓の上椽迄の距離の一倍半以上を超えてはなりませぬ、それから壁の色も大切でありまして、光線を反射するものが宜しうあります、吸收するものはいけませぬ、例へば黑色であると、光線を吸收しますから室内は暗く、白色は強く反射しますから、非常に明るいけれ共眩暈する恐がありますから、壁の色は灰白色か又は少し青味のあるものが宜しうあります、以上は天然採光法であります、是れから

人工採光法

の事を申し述べます、それて人工採光に用ふる物質は、光線の量が充分て、細業をなすに障害無く、それから無色て其光は震動せず、毒物を含んてはなりませぬ、それから光と同時に温を發生せず、且つ生産物が尠く、爆發、火災の危險の無いもので、價の安いものてなくてはなりませぬ、そこて採光の爲めに使用せらるゝ主なるものを説明すれば左の通りてあります。

蠟燭は普通多く用ひられて居ります、是れは炭酸水熱の如き生産物を多く出し、空氣を不潔にしまして、その上光が常に動搖しますから、物體を明示するに眼を勞し、光の量も少うありますから、適當の品てはありませぬ。

凡て動搖光線は眼に不部合てありまして、又見んとする物體の動搖するのも衛生上惡いのてあります、それ故に汽車の中や、車の上抔て書物抔を見るのは宜しくありませぬ、車の上抔て書物、新聞杯を見るのは甚だ惡い事てあります、非常に動搖しますから眼を勞し、近視の原因になります、人は朝から晩迄孜々として勉强するのは宜い事てありますけれ共、吾々は心の餘裕といふ事も大切てあります、車に乗つて居る間位は書見しなくとも宜しい事と思はれます、序に申しますが初生兒は光線に非常に感じ易いものてありますから、强い光に向けぬやうに注意しなくてはなりませぬ。

石油は最も廣く用ひられて居るものてありまして、我國ては越後地方から出ます、米國露國に多く産します、石油といふものは古い動植物が地の下て一種の變化を受けたものてありまして、種々なる炭化水素の混合物てあります、普通汲み出した石油の中には不純物が混じて居りますから、之を精製して使用するのてあります、そうして危險の無いといふ事を複雜な試驗の上て定めてからてなくては使用を許さぬのてあります、石油は固より「ランプ」に使用します、ランプの心には圓心と平心とがあります、圓心は光が强くて、石油も割合に少量て、熱、水、炭酸

のやうな生産物を出す事も尠くあります。
ランプの焰から直接に光が來ると、甚だ眩きものてありまして、眼の爲めに良くないものてありますから、其前に薄い日本紙を張り、或は磨りガラス又は乳色硝子火屋を用ふるときは、光度は少し減じますけれ共、眼に害がありませぬ、それからランプに點火すると、火屋が熱して溫を放散しますから、甚だ不快てあります、之を防ぐには二重の火屋を用ふるのてあります、さうすると光度は多少減じますけれども、外部の火屋は熱せらるる事が甚しくありませぬから、溫の放散を減ずる事が出來ます。
ランプに限らず、凡て光といふものは左方から來るのが眼の爲めに宜しうあります、もし右の方に光りがあるときは、書いたり抔する場合に、手の影が表はれて誠に不都合てあります、眞正面にあつても良くないてす。
燈用としては又瓦斯も用ひられて居ります、その瓦斯は石炭、木炭を乾餾して製したものてあります、石炭を乾餾するときは瓦斯、テール、コークスといふものが出來て、其瓦斯は硫化水素、安母尼亞、テール蒸汽、青酸化合物、硫化安母尼亞抔を含んて居りますから、化學的の方法を以て、之を精製して使用するのてあります、それて其精製して用ふる瓦斯はドンナものから成つて居るかといふに、重炭化水素、輕炭化水素、酸化炭素、水素といふやうなものから出來て居るのてあります。
瓦斯の危險は此れが漏れて酸化炭素の中毒を起すのてあります、室内空氣百に就き瓦斯が〇、〇一から〇、〇二位も漏れて雜るときは臭氣に依つて瓦斯が漏れたといふ事を知る事が出來ます、此時は空氣百に對し酸化炭素は〇、〇〇一から〇、〇〇二位に過ぎませぬから、別に中毒を起しませぬけれ共、百に對して〇、〇五になれば人體に害を與へます、それから瓦斯を導く管が地中に於て破裂した時には、土地は吸收作用を以て居りますから、瓦斯の臭ひが取れて了ひ、室内に多量に入る事がありましても、一向人が知ら

ないて、中毒に罹る事があります、瓦斯の中毒を蒙むつた時には眩暈が起り、頭痛がして、食慾無く、思考力が衰へ、ボンヤリとして、丁度窒扶斯のやうな狀態に陷つて死ぬのであります、歐洲では中毒に罹るものが中々多うあります、瓦斯は斯くの如く中毒の危險があるばかりで無く、又他に爆發の危險があります、是れは瓦斯が空氣と一定量に混合した場合に、爆裂瓦斯が出來るのであります、通常空氣四乃至一〇と瓦斯一の割合に混ずると爆發瓦斯を生じます。

瓦斯ランプは其尖端口の細いものを用ひますけれ共、之れは火焰が絕えず動搖し、光線が黃赤色を帶びて居りますから適當ではありませぬ、それで瓦斯の出る口が數多あつて、環狀に並んで居て、之れに硝子火屋の掛けてあるのがあります、是れでは光線は白くて、火焰の震動する事もありませぬ。

それから又木綿の絲で網を造つて、之れに一種の藥を塗つて、燒いて、圓筒形にして焰の上に懸け、火屋を具ふるときは、光力が非常に強くなり、焰の色は少し青味を帶びて居ります、之をアウエル氏灼熱燈と申します、瓦斯ランプといふものは燃燒生產物を出しまして、室內空氣を不潔にしますから、適當の裝置で之を除く方法があります、之れをジーメン氏ランプと申します。

それから水製瓦斯と謂つて、コークス或は木炭を灼熱して、之れに水蒸氣を通ずると、一種の瓦斯が出來ます、此瓦斯には多量の酸化炭素を含んで居りまして、臭ひが無いから、中毒の危險が多うあります、之れ故に他の臭のある瓦斯を混じて使ひます、此水製瓦斯は燃えても光が無いから、麻倔涅叟謨のやうな發光體を火中に置いて光を發せしむるのであります。

それから「アセチレン」瓦斯といふのも用ひられて居ります、是れはカルシユーム、カルビツトを水に浸すときに出來るものであります、此れは低廉で光も強いといふて居ります、併し燐化水素といふ有毒瓦

斯を含んで居ります。

その次には電氣燈の事を申します、電氣燈は抵抗の強いものへ電流を通じて熱を起さしめ、此熱を光に變ずるのであります、「アーク」燈といふのは、其光が青くあります、是れは空氣を以て三から六密米突の距離を絶縁して、兩端を炭で造つてあります、此れは光りが平等で無く、小さな燈にする事が困難てありますから、室内の燈にする事が出來ませぬ、それて是れは室外の燈に用ひます、灼熱燈といふのは電流の通過を妨ぐるのに炭の細線を用ふるのであつて、此炭は竹或は木綿絲で作つてあります、此れを眞空の硝子球の中に裝置してあります、光の色は帶黄赤色であります。

電氣燈は燃燒生産物が甚だ少く、衛生上極めて適當でありますけれ共、一方に於ては混線して火災を起したり、電流に感じて禍害を受けるといふ事もあります、以上採光法の御話しを致しましたから是れから

換氣法

の事を申し述へましよう、吾々の住室内の空氣を種々の原因から不潔になります、第一吾々の呼吸てすナ、此呼吸の爲めに炭酸水分を出しますから、室内空氣は酸素の量が減じ、炭酸、水蒸氣、其他種々の瓦斯を增加して來ます、その次には、皮膚の呼吸即ち皮膚から水、炭酸を出す、此の爲めに空氣が不潔となります、その次には採光法即ち種々な燈を用ふる爲めに生ずる燃燒生産物、その次には室内溫暖法の爲めに燃燒生産物が發生して、何れも室内空氣を不潔にする、その外職業の爲めに不潔物を生じ之が室内空氣を不潔にします、又傳染病患者の居室ては病毒を以て不潔にされます、斯くの如くに吾々の居室といふものは、人の生活作用の爲めに直に不潔となるものでありますから、室内空氣を絶えず新鮮にする事を計らなくてはなりませぬ、此方法を室内換氣法と名くるのであります、それて換氣法の目的とする所は、有害な瓦斯を室内から逐ひ出して、

新鮮な空氣を以て之を補ふて行くのであります、そこて室内空氣が不潔であるかどうかを定むるには、炭酸の含量を見て之を決了るのでありまして、炭酸が空氣千に對し一以上含まれて居てはいかぬ、一以上であれば、他から其室内に入ると一種の臭氣を持つて居ります、併し此室に入つて暫く居れば、慣れますから、少しも臭氣を感じなくなります、そこて外から新空氣を送れば宜しいのでありますけれ共、室外の空氣でも千分中には〇、三から〇、四位の炭酸を含んで居りますから、多量の空氣を送り入れる必要があります、それで前に申し述べましたやうに、通常の室内では千分中一以上の炭酸を含んではならぬのでありますから、此目的を達するには一人一時間に五十から七十五立方「メートル」の新鮮空氣を要する事になります、之の外に室内には空氣を汚す物體がありますから、實際に要する新鮮空氣の量といふものは誠に莫大なるものであります、それで種々研究の結果通常の住宅では一時間一人に就き五〇立方迷突病室抔では一五〇立方迷突位を要する事になつて居ります。

そこて室内に送り込む空氣は清潔て塵埃の少いものてなくてはなりませぬ、そうして空氣の入る速度を緩慢な方が宜しうあります、あまり烈しく入つて來ると不快てあります、そうして夏は涼しく、冬は暖い空氣を入れる事が出來れば一層宜しうあります。室内空氣を交換する度數があまり多いと常に風の吹く所に居るのと同じ事になつて來ますから餘り度々にせぬやう、一時間三回位としてあれば宜しうあります、狹い室に多人數居る時には交換の回數を多くし廣い室なら之に應して回數を少くする、工場のやうな所で塵埃の甚しく發生する所では、之を吸ひ取る仕掛けを具へ、或は濕めらして其飛散するのを防がなければなりませぬ。

さて室内換氣法には、二種ありまして、一は自然換氣法と言ひ二は人工換氣法と申します、先つ

自然換氣法

から申し述へましよう、自然換氣法と申しますのは、室の壁の隙間、壁の物質間の小孔、床、天井杯の小なる氣孔から中の空氣が外に出て、室外から之に代つて新鮮空氣が入つて來るのを言ふのであります、斯くの如くに壁の氣孔から空氣の出入するのを通氣性と名けますが、此通氣性は壁の種類に依つて違つて居ります、一般に壁が厚く、又濕つて來れば、通氣性は減じて來ます、それから壁の塗料に依つてもちがふ、例へば日本壁の砂上塗は通氣が宜しいけれ共、漆喰塗になると通氣性が惡い、

茲に、千立方米突の室があつて、此中に人が百人居るとすれば、一人一時間に二二、六「リーテル」の炭酸を出します、夫故に二二六〇「リーテル」となります、そこで此室內の炭酸量を千に就き〇、五とすれば此室の炭酸量は始めから五〇〇「リーテル」なる譯てありますから、一時の後には二七六〇「リーテル」となり、千に對する二、七となる筈てあるけれ共、實際〇、八位しか無い、此れを自然換氣て以て、室內の炭酸を多く含んて居る空氣が隙間から出て、外から新鮮空氣が入つたからてあります、そこで自然の換氣は空氣壓力の相違、室溫と外の溫の差、風等に依つて行はれるものてあります、それ故に壓力、溫度の差が少いときは、換氣は不充分てあります、日本の家屋は自然換氣が西洋家屋よりも遙に良く行はれて、六倍から二十倍てあるといふ事てあります、此自然換氣といふ事は大層都合の良いものてありますけれ共、もし外部の空氣が不潔てあつた場合には換氣して、此れが室內に入つて來ても何の効も無い事になります、自然換氣のみては到底室內空氣を所要の程度に淸潔に保つ事が出來ませぬから、茲に人工換氣といふものが必要になつて來ます。(以下次號)

育兒

氏と育ち

A、B生君

いろは譬に氏より育ちと云ふのが有ります、如何程名門の生れの人でも、其育ち其教育が善くし者は立派な人間に成る事は出來ぬ、人は其氏に因る物では無い、育ちだに善くば身分に上下の區別無く皆偉人傑士と成り得べきもので有ると云ふので有りましやう。併し又一方から考へて見ますと一概に左樣ばかりも云ふ事の出來ぬもので有りまして、『生れが生れ』だの、「お里が知れる」だのと云ふ樣な言葉も有りまして、如何しても育ちより氏である、生れが善くなければ到底大なる者には成る事は出來ぬと云ふ人も有ります。之れを要するに生れも育ちも共に必要なる條件で有る事は云ふ迄も有りませぬ。以上は主として人の財産だの智識だの品性だのと云ふ樣な方面からの話で有りますが、人の體格や健康や發育の上にも、之れと丁度同じ樣な關係に成つて居ると思はれます。生れの方から申しますと、人には種々の病氣の遺傳が有りまして、其家系の者其子孫は如何しても其病から全く免れると云ふ譯には行きませぬ、直に其病氣には罹らぬにしても、何かのはづみには其病氣に成り易い原因を持つて生れて來るので有ります、夫れには澤山有りましやうが、癩病だの結核だの神經病だの精神病だの癌腫だのは其主なるもので有ります、又中には其病氣其儘には傳はらないで、少し宛形を變へて子孫に起つて來る事も有ります、即ち精神病の患者に神經衰弱の子が出來たり神經衰弱の人の子が癲癇で有つたり、癲癇の人の子が「ヒステリー」に罹つたり、又は同じ結核でも親は肺結核でも子は結核性關節炎を患へ、孫は結核性頸腺腫を病つて居ると云ふ樣な事も有ります。又病氣

によつては子孫代々に傳はると云ふ程の物で無くとも、只其親が罹つて居たばかりて、其子に先天性の疾患を與へる事も有ります、梅毒の如きは其好適例て有ります。次には育ちの方で有りますが、之れは最早改めて云ふ迄も有りません、小兒の罹る多くの疾患は大抵は親の不注意から來るもので有ります、少しく注意を怠らずに居れば左程病氣に罹るものては無く、又罹つたにしても養生法宜しくば治癒も左程困難ては有りますまい、時には又決して有り得べからざる、起り得べからざる病氣を、親達が强て作つて居る樣な事すら見受けられるので有ります、斯かる事は氏より育ちと云ふ言葉に適合して居る樣て有りますが、此最も適切なる例は小兒の『ヒステリー』て有ります。

以上の病氣を悉く詳しく申す事は出來ませぬから今此生れの方即ち先天的の疾病と、育ちの方即ち後天的の疾病とから、一つ宛興味ある適切なる例を取りまして、先天性梅毒と小兒『ヒステリー』とを述べて見ましやう。

先天的梅毒

梅毒の恐ろしい事は前號不幸なる夫妻と云ふ話の中に見えて居る通りで有りますが、兩親共梅毒か又は一方が梅毒に罹つて居るかて、小兒が未だ子宮内の生活をして居る時から既に梅毒に感染して生れて來るのを先天性の梅毒を持てる小兒と云ふので有ります。斯かる小兒の生れるには二種類有りまして、一は一見健康體の樣に生れて來まして一定の時が經つてから梅毒の徴候を表はし來るもので有りまして、他は始めから明らかに梅毒の症狀を呈して生れ來るもので有ります、之れは多くは月足らずで流產をして仕舞つたり、死んで生れて來たり、或は漸く生れて來ても生れて直に死ぬと云ふ樣なのが多いので有りますかち、之れ等に就きましては多く申す必要も無く、問題には成らぬので有ります、今お話致さうと云ふのは生後一定の時の後に症狀を呈し來るもので有りまして、夫れは大抵生後四週目乃至六週

目位に始まるもので有ります。而して此徴候として第一に擧ぐべきは鼻加多兒で有ります、鼻粘膜が腫脹して鼻孔閉塞を來し、鼻て呼吸する事が大變苦しく成ります、親達は何も知らぬから風でも引たのであらう位で濟まして居ても一向よくならぬ、之れは驅梅療法を行なふ迄は決して恢復するものでは有りません。其次に來るのが結膜炎で有りまして、じみ〳〵膿が出て來る。次には皮膚裂瘡を來すので、口唇や耳の後に裂瘡が出來て之れも容易に治らない、此三つの症狀が揃つて居たら先づ大抵は先天梅毒と思つて差支は無いのであります。以上の症狀を來す樣な患者に成るとそれに伴つて又種々の症狀が表はれて來る、第一全身の營養狀態が甚だ惡しく成つて來まして、所謂赤子の特徵なる赤い色が無く成つて非常な貧血を來しますし、身體の脂肪も少なく成るから實に見るも哀れな樣な姿と成る。夫れと共に又毛が脫け落ちる、頭の毛や眉毛睫毛迄も皆多少脫けて薄く成ります、尤も普通の小兒にても生れて九十日か百日位で毛が脫け落ちて古い毛が新しいのと換るのが常で有りますが、此時のは順に脫け換るので有りますから左程目立つて眉毛等の薄く見える樣の事は有りませんが梅毒の爲に脫けるのは餘程著しいもので有りまして、一寸面附が一變する樣に見えるもので有ります。次に最も必要なのは發疹て有ります、之れは實に獨特のもので有りますから之れだにあらば外の徴候は缺けて居ても梅毒の診斷には一向差支無いので有ります。此發疹は米粒大から豌豆大位のが全身に出來るので有りますが、就中著しいのが手の掌と足の蹠とで、此二ケ所に同時に出來まして赤くなるが鮮紅色では無く赤褐色又は銅色を呈し其邊の表面が光澤が有つて、皮膚は剝脫して居るので有ります、時に又一つ一つの發疹は見分けがつかずして一面に銅色に成りまして、一體小兒の掌や蹠は至つて柔いもので有るのに此爲に硬く成りまして、小さい皺等は見えなく成り、只てか〳〵と光つて居る樣に成るので有ります。其

他淋巴腺の腫れる事は大人の梅毒には是非有る事で有りまして頸や肘や鼠蹊等の淋巴腺が侵されるので有りますが、先天性梅毒には之れは來ぬ事も有ります、肝臓や脾臓は餘程腫大して居まして腹部の觸診てよくわかる樣に成つて居ます。先天梅毒の症狀は主として先づ以上の如きもので有りますが、扨て此療法はと云いますと、何分非常な營養不良に陷つて居るので有りますから、先づ營養を善くする事に勤めねば成りません、其爲には是非人乳を與へねば成りません、母に梅毒が有りましても、乳を呑ます事は相互に少しも差支は有りません。次に藥劑は普通の驅梅劑で有りますが、沃度劑は餘り用ゐず、水銀劑の方が多く用ゐられて居ます、即ち甘汞、黄色沃汞、水銀軟膏、黑色亞酸化汞、昇汞抔で有りまして、內服したり、塗擦したり、注射したり種々の法が行なはれます。

「ヒステリー」

小兒に『ヒステリー』の樣な病氣が果して有るてあらうか、何だか變に聞ゆる樣てあります、小兒は未だ腦が發達して行く最中て、其考も極めて簡單な事ばかりて有りまして、難かしい思想等は無いので有りますから、此樣な簡單な頭腦から考へ出した症狀も極めて簡單なものなので、大人の『ヒステリー』にある症狀とは餘程變つて居る、其爲に醫者も滿更『ヒステリー』とは思ひも寄らずに過し來つたものが多かつたと見えて、昔は小兒の『ヒステリー』は甚だ稀なる疾病と思はれて居たが、近來は左程珍らしい病氣では無いとせられて居るので有ります。『ヒステリー』に罹る小兒は多くは多少神經質の、物に怖れ易い、驚き易い樣な小兒で有りまして、其近き原因と成る事には種々ありますが、恐怖驚愕等も其一つて有ります、高い處から落ちたのが原因と成つたり、犬に吠えられたのが原因と成る樣な事も往々ある事て有ります、又急性傳染病の後に『ヒステリー』の來る樣な事もあり、外傷をうけたのが原因となる樣な事もあり、又は生殖器殊に睾丸や卵巢の疾病の爲

に起る樣の事も有ると云はれて居ります。併し以上の諸原因の外に最も多く最も關係の深いのは、小兒の極めて模倣性の强き幼稚な頭に對する誤つたる感化であります、小學校や女學校等て吃りや舞踏病のうつるのは常に見らるゝ處て有りまして、小兒と云ふものは實に感じ易い者てありますが、かゝる頭腦に對して「ヒステリー」を起さしむるに最も適當なのは、其母の祖母かに「ヒステリー」又は他の精神病の患者の有る事て有ります、日常の生活に於て之れを見習ふので有りますから實に危險千萬と云はねば成りません。又直接に「ヒステリー」や精神病の人に接せずとも、小兒が他の小兒の間に在らずして常に大人の仲間に成つて居るだけても時には「ヒステリー」の原因と成る事が有ります、弱き頭腦て日々大人の話ばかり聞て居り知らず識らず病的に成るのてあります、祖母育ちだの一人子だのに此患者の多くあるのは此理由て有ります。「ヒステリー」の起こるのは大抵六七歳以上て有りますが、其症狀は如何かと云ふに、前申した通り小兒は頭腦が簡單だから其症狀も亦極めて簡單て有ります、例ば大人ては或部分に運動障害が起つたら必ず共に知覺障害もあるだらと云ふ樣な考がある爲に、兩者が平行して起つて來るが、小兒は其樣な複雜な事は考へないから兩者共に起る事は少ない、又ある限局したる知覺障害の如きもの其他凡て複雜なる症狀は起つて來ないのて有ります。扨て症狀の主なるものは如何かと申しますと、先づ知覺障害ては知覺過敏と麻痺の二樣が有りまして、其中ても神經痛は多くある症狀て殊に關節の疼痛が多く來る樣て有ります。次に動運系の障害には麻痺痙攣等て有りまして、麻痺には一臂若くは一脚の麻痺や半身の麻痺等て、痙攣には舞踏狀運動を成したり、一側の上肢又は手ばかりの運動や時には又全身の痙攣も有ります。次に又精神的の障害には甚だ種類が澤山有まして、僅に異狀を呈して居るのから全く狂的に成つて居るのまで程度も樣々て有ります。以上の中て運動の障害が最も多く

次で知覺障害で、精神に障害を來すのは比較的少ないので有ります。其他尙ほ全身の症狀として食慾不振だの不眠だの便秘だの貧血だのと種々の狀を呈します。以上の症狀は又經過中に屢々變化を來して、ある局所の重き症狀が俄に去つて他に移つたり、微細なる障害が限局して何時迄も去らない樣な事も有ります。斯くて此疾病は輕症の者では僅々數日か數月で治癒する事も有りますが、重症の者では終身不治に終る事も珍らしくは有りません。此病氣の療法としては藥劑を用ふる事もあり、電氣療法等もあるが、主として用ゐねばならぬのは精神的の療法で有ります。それには其原因が外傷等にあるものは別として、家庭の感化が主因を爲す者にあつては、種々の慰安や暗示等も必要では有りましやうが何より先きに其家庭から遠ざけねばならぬ、其病が一旦恢復してから後も家庭に直接其病の原因に成つた人が居ならば決して其人に近づけてはならぬ、然らざる時にも成べく常に同年齡の兒童の間に嬉戲せしめて置かねばなりません。



質疑

●問　本年廿九歲の男子一體瘦形の方にして時々胃腸病を患ひ昨年三月頃には盲腸炎を起し其後全快せしも近頃に至り夜に入れば足にだるみを覺ゆるに付き何か病氣の前兆にてはなきやと心配いたし候右療法は如何にせば宜しく候哉何卒御敎示下され度願ひ上げ候

在熊本　一會員某

●答　身體の違和不快の感とか足のだるみと云ふ樣なものは種々の病氣の前驅となりて來ることがありますが他の全身狀態を參考せんければ能く判りませぬ、又熱のあるときや諸種の神經系統の疾病、

脚氣、疲勞或は木浴後等にも來ますが御質問の趣きに依れば一體瘦形の方にて時々胃腸病を患ふとの事なれば或は慢性に經過する胃腸病の結果消化吸收の機能完たからざるため幾分か身體の榮養を害せられ從て衰弱の一徴として來りしにあらざるかと思はれます、故に日常の食養法を嚴にせられ即ち消化吸收し易き滋養物例へば新鮮なる獸肉、魚類、鳥肉、スープ、鷄卵、牛乳の如きものを用ゐ間食を愼み適當の運動をなし若し出來得べくんば溫泉療養を試みられなば胃腸も健全となり引て身體の健康を保つことを得るならんと思はれます藥物としては彼の有功無害なる消化劑としてタカヂアスターゼ一回〇、一瓦乃至〇、三瓦を毎食後直ちに服用せらるゝが宜し又平素便通を調節さるゝ樣に便秘に際してはヒマシ油二〇、〇瓦或はカスカリン丸三乃至六粒を頓服せらるゝ時は甲にありては二乃至五時、乙にありては四乃至九時間にして適度の通利を得ることが出來ます、併し詳細の事に至りては無論接診の上ならでは分りません

●問　謹啓貴會愈々御隆盛奉賀候、私事貧血症にて肉付き惡しく候間是迄小西製の次亞燐酸鹽舍利別を服用致し居り候へども近來廣告にフエラトーゼなるもの補給良藥なること出て居り候につき之れに代んと存じ候へ共其の良否不案內につき御貴答承り度又へモグロビン、糖燐酸などの滋養劑有之候へ共何れが安全適當に御座候哉御敎示の程願ひ奉り候

關東　會員　某

●答　配劑の巧妙なる神經系、呼吸器系にも有効にして且つ消化機關に堪え其の服用し易き特點に於て次亞燐酸鹽舍利別の服用を持長せば可ならん、其他フエラトーゼ、ヘモグロビン糖燐酸、ソマトーゼ、規那鐵葡萄酒等何れを服用するも害なし、然れど之れ等理想的配劑は必ずしも豫期せる確効を奏するものと云ふべからず滋養食餌を攝收し規則

正しき運動例令ばポート、サンダー氏體操、山野の跋渉等を試み毎朝冷水摩擦をなし勤めて精神を爽快にし、又一日六時間以上の安眠をなす等日常の衛生的事柄に留意されたし、彼の農夫の如きは一般に粗食なれども常に運動宜しきを得るが故に榮養の甚だ盛んなるを知るべし尚ほ貧血羸瘦は他病の一分症となりて來る事多きを以て良醫の診斷を乞ひ其の原因を驅除するにあらずんば如何に高貴の滋養劑も空しく水泡に歸せん、今參考のため貧血羸瘦に由來する主なるものを略擧すれば、不良なる生活法、中毒、十二指腸蟲、縧蟲、心身興奮、慢性腸胃加答兒、潜伏結核、梅毒、マラリヤ、内臟の腫瘍失血等とす

雜報



○中央衛生會委員會

去る九日午後一時内務省に大阪市のペストに關する中央衛生會議特別委員會を開き舊臘實地調査に出張せる窪田局長、山根正次、緒方正規三氏の詳細なる報告あり、撲滅に關する意見は各草案を作りて幹事の手許に提出し更に之に關し凝議する所ありしが其の要點は姑息的豫防法を排し市街取除家屋の破壞後燒却、家屋の改正等を必要とするも其費用頗る莫大なるを以て自然國庫の補助を仰がざるべからず而して其先決問題として家屋條例を制定し先づ之を大阪市に施行すべしといふにあり

○種痘訓令

東京府知事は訓令第一號を以て市郡役所に左の如く

訓令したりと

兵庫縣神戸市に於ては昨年八月以來痘瘡患者發生し近來病勢益々猖獗にして日々の發病少なからず又大阪、和歌山、愛知、佐賀等の府縣に於ても同患者の發生ありて今後尚ほ蔓延の虞あるに付此際一般に春季種痘を繰上げ施行せしむる等豫防上遺算なき樣相當に措置すべし

○私立衛生會公會堂

全國に數十万の會員を有し公共衛生事業に向て偉大の勢力を有する大日本私立衛生會は其活動上の附帶事業として一大公會堂を建設すべしとの議起り夫々調査中の所愈々設計終了し來三月上旬より該工事の起工に取り掛るべしと而して其敷地は芝公園内の一部に決定したる由

○病人食物研究會

巣鴨病院長呉博士及び三宅博士富士川游氏等理想の看護婦を養成せんとを主唱し舊臘廿三日夜三十餘名の醫師を神田區三河屋に會して愛染看護婦會なるものを設けたるが席上赤羽武次郎氏は看護婦養成と共に病人食物の研究も必要ありとて標題の如き會を創立したき旨を述べしに來會者悉く同意し來春早々創立の準備に着手するとなれりと云ふ

○看護婦生徒卒業

日本赤十字社に於ては昨四十年十二月二十四日東京府豐多摩郡下澁谷日本赤十字社病院に於て第二十九回看護婦生徒卒業證書授與式を擧行せり當日篤志看護婦人會總裁載仁親王妃殿下、名譽會員依仁親王妃殿下、守正王妃殿下臺臨あらせられ副社長男爵小澤武雄氏外本社職員、副院長平井政遒氏外病院職員、篤志看護婦人會長侯爵夫人鍋島榮子以下同會職員及び卒業生保證人等出席午前十時平井副院長行式の旨を告げ卒業生に證書を、優等者に賞品を授與し篤志看護婦人會總裁殿下より御諭旨を賜り次て小澤副社長、平井副院長より卒業生に對し諭告あり次に卒業生總代答辭を朗讀し式を畢れり

○長壽者の增加

長壽者の增加と云へば新年早々極めて目出度き事なるが我國に於ける男女出產の比例は女子百人に對し男子百五人强の割合なれど普通六十歲前後までは男子の方多數なるも夫れ以上にては女子の數著しく增加し九十歲乃至百歲に至れば女子の數は殆んど男子の三倍に及べりと云へり是れ或は男子が生存競爭の激しくして精力を消耗する事の大なる爲め長壽を保ち能はざるに依らんか去れど長壽者の數は近年男女を通して一般に增加の傾向を示し明治二十年の統計には八十歲乃至九十歲の高齡者百人中〇、五二、九十歲乃至百歲は〇、〇二なりしものが同三十年には八十歲乃至九十歲は〇、六一、九十歲乃至百歲は〇、〇四に增加し更に最近の統計によれば八十歲乃至九十歲は〇、六八、九十歲乃至百歲は〇、〇五に增加したりと云ふ喜はしき現象なりし

○小學生の轉地修養會

九段阪下精華小學校にては今回の冬季休業を利用して轉地修養會を催ほしまづ第一回として湯本校主田代主事磯部敎師等同校尋常一年より二年迄の男女生徒廿五名を引率し鈴木姆母小原醫師外に看護婦一名附添ひ舊臘廿七日より本月七日まで鎌倉に轉地越年したるが意外の好成績なりき今其設備を聞くに各敎員は二週間山水明媚の地に父兄の如く生徒に接近しその性癖嗜好より食事の好憎健康狀態等を觀察し生徒も日頃敬慕する諸先生の膝下にありて寢食を共にし双方の間に感情の融和と愛情の濃密を加へ敎育上の裨益尠なからず生徒の父兄其他敎育者の參觀に來るもの日に平均十數名を超えいづれもこの擧を稱揚せざるはなかりき其生徒に及ぼしたる顯著なる良習慣は冷水洗面の効果にして家に在りては湯を用ふる生徒等も奮つて冷水にて洗面するに至りたるは衞生上最も注意すべきものにして其他着衣の競爭に就ては平生家庭にありては乳母又は家人の手を煩はさして一人にて着衣し能はざるものも一週間後には何れも早きは三分遲きも十一分にて洋服を自から着する樣になれり食事習慣の矯正は各敎員の苦心する處

なりしに其心づかひ空しからず良家の子弟にして肉類卵牛乳等の滋物養を嫌へる爲め榮養不良に陷り又食事の好憎極端なりしものありしが一週間後よりは進んて與へられたる副食物等を食し內二名は絕對に嫌へる牛乳さへ飲用するに至れりと云ふ

○餅と酒の注意を要す

歲首人は皆屠蘇に醉ひ雜煮に腹鼓打ちて勢ひ衞生などには意を拂はざるもの多き事とて开が雜煮餅及び酒に就き神田三崎町なる小兒科醫伊澤氏の語る處によれば元來我國にては古來よりの慣習上正月には貴賤の別なく雜煮餅を用ゐ居るも概して餅は消化惡しく殊に搗きたてのものに至りては粘り氣多くして消化に非常の力を要するものなれば成る可くは充分固まりたるを使用すべく餅よりも寧ろ乾餅煎餅等は充分嚙み碎く事とて消化良好なり餅の消化時間は普通四時間乃至六時間を要するものなれば餅を食したる後六時間程の間は成る可く他のものを食せざるべし殊に注意を要するは未だ充分發育せざる小兒及び老人等には決して搗き立ての餅を勸めざる樣に爲すべし然らざれば時には其粘り氣の咽喉部に附着し遂には窒息して死亡せし例も往々見聞する處なれば此際充分の注意を拂ふべし又義齒を用ゐ居る人の如き時には餅の爲めに其れを嚥下し不慮の災を招く事あれば之れ又決して忽にすべからず雜煮阿部川餅付け燒等のうち阿部川餅は最も胃に害あり付け燒先づ最も胃に及ぼす害少なからん其故は阿部川の餅の元來胃に害ある上に殊に胃には最も厭ふ可き黃粉砂糖の附着し居ればにて付け燒は既に一旦焚りたるものとて充分固くなり居る事とて嚙む力も多く爲に乾餅煎餅など同く其害比較的少し要するに餅は男には餘り好ましきものにあらず然れ共充分嚙み碎きたる後嚥下せば其及ぼす害多大ならず又餅と同じく正月には必ず吉例の祝のものとして使用し居れる屠蘇は勿論少量飲用するものなれども若し之れを多量に用ふる時に於ては腦に非常なる害を及ぼし頭痛眩暈等を惹き起す事もあり寧ろ酒の方其害尠し殊に小兒な

どには絶對に之を用ひしむる可からず元來酒は適度に用ゐ居れば興奮劑となりて食慾を奮起せしむる事あれども其量を過したる時は却つて麻醉期に陷ゐり食慾を起さず嘔吐を催す事あり往々飲酒を好む人にて飲酒の後御飯を甘く喰ふ人と決して何ものをも食せざる人とあり、前者は即ち未た興奮期にある人にて是れ等は寧ろ良好なる方なるも後者に至りては已に麻醉期に陷りたるなり又時には少しにても酒を用ひざれば決して食慾を起さゞる者あり這は最早アルコール中毒に犯されたるものにて酒の爲めに胃を刺戟して漸く食慾を興奮せしむるものなり要するに酒は前にも記したる如く其量に於て或は藥ともなり又は非常なる害毒ともなるものにて何れかと云へば害多くして益なきものなれば寧ろ飲まざるを可とす

○强制種痘厲行

天然痘蔓延の兆候あるより警視廳及び東京市の兩衞生課は今回共同して來る二十五日より市內全般に渉りて種痘を厲行する趣にて殊に出入繁き吉原洲崎品川新宿等の遊廓下級細民の群集する各區の貧民窟所在地の下宿屋等には嚴重なる出張種痘を强制する由尙市民は老幼男女の區別なく此際は可相成種痘を爲し萬一の感染を免るべきなり

○篤志婦人の授賞

篤志看護婦として功勞ありし各夫人に授賞されたるが、內吾醫界人士の夫人にして行賞されたるもの左の如し

山下兼善氏夫人チセ子▲長町耕平夫人武子▲下平用彩夫人吉子

勳六等寶冠章

高安右人夫人眾子▲落合泰藏夫人信子▲足立寬夫人小簾子

勳五等寶冠章

○大阪市消毒隊の組織

大阪市に於ては、臨時防疫部に消毒隊を設置し、之を七團に分ち各一團を二中隊とし、更に之を四小團に區別し、一小團に組頭一人、人夫十人、大工一人、小供一人、喞筒二臺を以て一組とするもの四組を置き、以上の大中小各團長以下約三千人を以て消毒機關を組織し一令の下に各團をして活動せしむる方法

の由にて去る十三日各團長を任命し直に實行する筈なりと云ふ



大日本婦人衞生會記事

○本會新年會

一月十一日（第二土曜日）午後二時より神田一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て前例により新年の互禮を兼ね本會の新年會を開きぬ、當日本會總裁東伏見宮妃周子殿下には御洋裝麗しく御臺臨あらせられ、暫時御休憩の後副會長濱尾男爵夫人の御先導にて式場へ御用掛上野夫人を從へ御臨場遊ばされたり、此時一同最敬禮をなし、席定まるや會長鍋島候爵夫人には簡單に新年の辭を述べられて式を終り、直ちに餘興に移りて貞龍齋貞水の講談（多賀良船の由來）ありて後殿下には別席に於て御少憩の上御機嫌麗しく御歸邸遊ばせられたり、次て又桃川燕林の講談（木村長門守の堪忍袋）あり、此日會するもの無慮三百餘名なりしが一同へ茶菓を供して各自談笑に時を移され歡を盡して和氣靄々の裡に散會せしは同四時半過る頃なりき、夫れより直ちに鍋島會長を始め役員一同打揃ふて麹町の富士見軒に於て本會の爲めに盡力せられし講師諸君を招待して聊か慰勞の宴を催ふされしが同九時頃散會せられしと

○當日出席の役員は左の如し

會長 鍋島榮子　副會長 濱尾作子
三浦敬子　長谷川仲子　山本多穗子
山口良子　田村喜代子　高橋幸子
土肥多越子　新木鏡子　小川幸子
岩下ゆか子　松平芳子　鳩山春子
岡田德子　緒方悦子　宮下咲子
片山龜子　（以上評議員及幹事）

○當日の寄附

一金五圓　鍋島會長
一蜜柑　二箱　濱尾副會長
一金五圓　四評議員

山形支會

○昨年末納會

舊臘七日午後二時より當地女子師範學校內に於て例會を開く、來會者約五十餘名にして左の講話ありて同四時頃散會せしよし

一膀胱結石に就て　佐々木春作君

○本會入會者

○事務所申込

●埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町　通常會員　仁科たか子

●京橋區東湊町一ノ四四　通常會員　橋本とよ子

○石川さの子紹介

●小石川區指ヶ谷町　通常會員　橋本せい子

○横內いわ子紹介

●牛込區赤城下町二三　通常會員　松井もと子

○田村さよ子紹介

●本郷區元町二ノ六十二　特別會員　橋本玉汝子

○小川孝子紹介

●京橋區南新堀一ノ六　通常會員　牧原なを子

○中川房子紹介

●秋田縣雄勝郡三輪村赤袴　通常會員　藤野しげ子

◎秋田縣雄勝郡三輪村貝澤　通常會員　佐々木もよ子

○大森百合子紹介

●牛込區市ヶ谷仲ノ町十六　通常會員　三木梅子

○門野駿子紹介

●麻布區鳥居坂町ノ十　特別會員　西澤ゆき子

○資格變更

●特別ニ改ム　門野駿子

○高崎支會々員資格變更

●通常ニ改ム　渡邊繼子

○轉居

●麹町區上二番町四十へ　指宿蔚子

●赤坂區福吉町一、黑田侯爵內山中方へ　鈴木つる子

●府下南品川淺間臺一四〇七へ　綱島たつ子

●臺灣臺北艋舺入甲街一四〇へ　田原甫子

●大阪府天王寺村字天王寺四ッ松へ　波多野はつ子

●尾道市久保町へ　舊牧野　團藤ちゑ子

●本郷區西片町一〇にノ二號へ　又水きく子

●赤坂區青山北町六ノ三十七へ　安村忠子

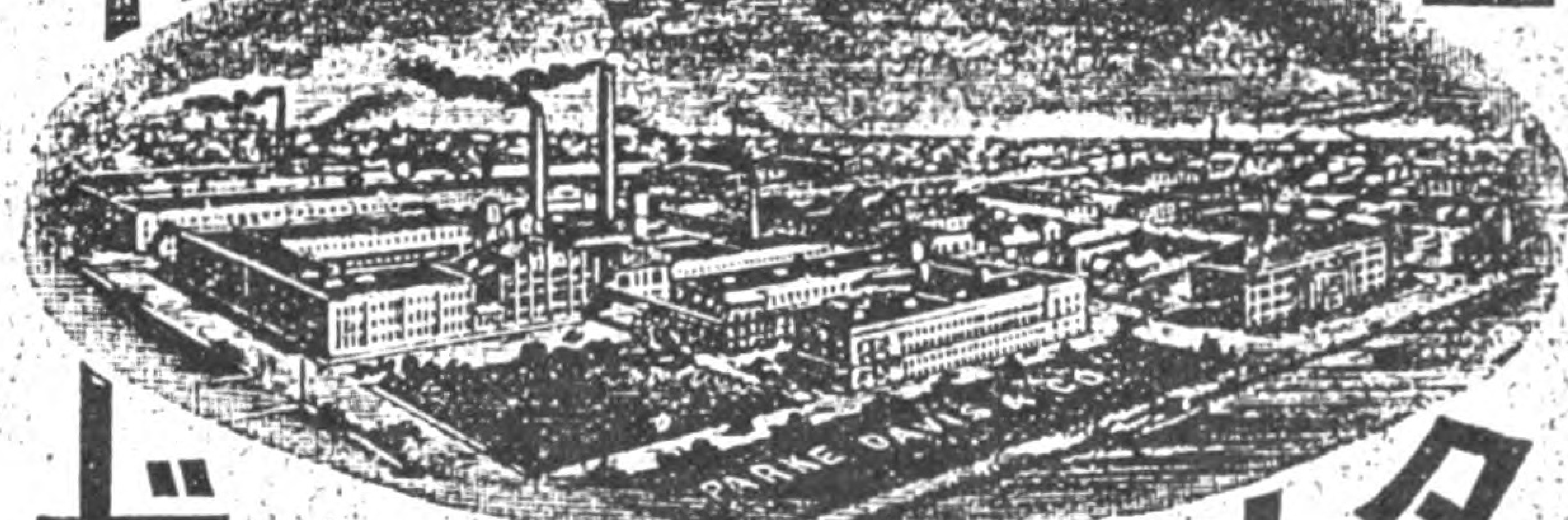
●麻布區芝森元町一ノ二十七へ　水原きん子

●府下大久保村大久保百人町七九へ　湊原せい子

●本郷區曙町三へ　服部もと子

●赤坂區青山南町五ノ四五はノ八號へ　大井上ちかよ子

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規摸の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ

高峯氏發見消化新劑

本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其効力永久不變なり。

醫師及藥舖諸彦！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徴し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

私立大日本婦人衞生會

米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地　豬股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く　其任期は各一年とす

第四條　毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ　事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし
但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として　特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす
但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め　一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは　役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に掲げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九
米澤支會

私立大日本婦人衞生會

山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す　役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし　本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立
事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方
山形支會

私立大日本婦人衞生會

宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條　毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツヘシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及ヒ羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立　事務所宇都宮市馬場町
宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望んとするには必ずや衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に限じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に設く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖も徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす。終身會員は一時に廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地　茨城支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第三號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

○第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第一號

七拾錢（黒塗箱入送費九錢）

六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のこと﹅す●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座一〇六〇〇番）
編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤滿之丞
印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治四十一年一月十六日印刷
仝年一月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百十八號（毎月一回二十日發行）